

日本消防



●平成25年度 日本消防協会事業計画について



4
2013

□ 絵 平成24年度消防功労者表彰式 H25.3.6 (水) 於 ニッショーホール
 平成24年度消防庁消防団等表彰式(意見発表会表彰式) H25.2.28 (木) 於 ニッショーホール
 ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」好評放送中! (財)日本消防協会

巻頭言「消防団員の確保にむけて」	公益財団法人 広島県消防協会 会長 丸山 正隆	1
日消の動き「福祉共済・火災共済・個人年金」	(財)日本消防協会 会長 秋本 敏文	2
平成25年度(財)日本消防協会事業計画について	(財)日本消防協会	3
消防互助年金の改正のお知らせ	(財)日本消防協会	7
被災地に消防車両を寄贈		8
ラジオ番組「おはよう!ニッポン全国消防団」出演者紹介	(財)日本消防協会	9
平成24年度消防功労者消防庁長官表彰	総務省 消防庁	14
特別表彰「まとい」を受章して 「東日本大震災を乗り越えて」		
気仙沼市消防団 団長 武山 文英		32
東西南北(香川県)「防災・減災を担う消防団」	多度津町消防団 団長 村井 勉	34
東西南北(熊本県)「住民の安心・安全のために」	高森町消防団 団長 吉良 嘉人	36
東西南北(和歌山県)「わがまちの消防団」	太地町消防団 団長 山下 雅久	38
シンフォニー(京都府)「地域に親しまれる活動を目指し」	京丹後市消防団 団員 中村 恵美	40
頑張れ!少年消防クラブ(北海道)「南渡島消防事務組合七飯消防出初式に参加」	軍川少年消防クラブ 事務局 野田 俊朗	42
消防団120年特別企画「大日本消防」表紙絵	(財)日本消防協会	43
うちの名物団員		44
消防団の広場(秋田県)「町を守る消防団本部」	羽後町消防団 本部 本部長 佐藤 良友	46

編集後記

表紙写真説明

桃陵公園の『そめいよしの』と金剛禅総本山少林寺『大雁塔』

桃陵公園にある金剛禅総本山少林寺は開祖宗道臣が、昭和22(1947)年多度津町において「人づくりのため「行」として創始しました。日本各地のおよそ2000の道院では、子どもから高齢者まで世代を超えて楽しく修行しており、多度津の本山には、年間を通じて大勢の門信徒が修行に訪れています。

また、春には桃陵公園のそめいよしの4000本が咲き、訪れた人々を和ませてくれます。

(香川県多度津町)

(提供:金剛禅総本山少林寺 撮影:金本孔俊)

平成24年度消防功労者表彰式

平成25年3月6日（水） 於 ニッショーホール



平成24年度消防庁消防団等表彰式(意見発表会表彰式)

平成25年2月28日（木） 於 ニッショーホール



ラジオ番組
「おはよう！ニッポン全国消防団」
好評放送中！
(財)日本消防協会



1月放送分に出演の沢田亜矢子さん



2月放送分に出演のジュディ・オングさん



3月放送分に出演の菅原文太さん



3月・4月放送分に出演の堀江謙一さん

「消防団員の確保にむけて」

公益財団法人 広島県消防協会 会長 丸山 正隆



私が消防団に入団した当時は、消防団員になれるということはとても名誉な事とされており、入団志願者も非常に多く1世帯につき1人の入団しか認められておりませんでした。

実際、私も就職後すぐに入団を志願しましたが、既に兄が入団しているということで、27歳のとき世帯から独立するまでの7年間は入団することが叶いませんでした。

今振り返ってみますと、その当時の団員の報酬や手当は今よりもずっと少なかったのですが、団員であることの誇り、家族の理解、地域からの評価は今とは違っていたように思います。

昔と今が変わり団員が減少してしまった理由は、時代の流れでボランティア精神が希薄化してしまったと一言で片付けることもできるのですが、私は何か重要な事を見逃しているのではないかと考えております。

私は、消防団というボランティア組織は名誉や金銭などのメリットと考えられる部分と負担や拘束などのデメリットと考えられる部分のバランスで成り立っていると考えており、メリットがデメリットを下回っているから、消防団員が減少しているのだと推測しております。

何がメリットで何がデメリットかは人それぞれで一概に言うことはできませんが、通常の消防団活動を行う際のデメリットと考えられる部分については、通信手段や資機材性能の発達等でむしろ以前よりも軽減されたと考え、それ以上にメリットと考えられる部分が少なくなったということと、これまでメリットとされていたことが、デメリットに変わってしまったということが考えられます。

代表的な例の1つ挙げると、以前は消防団に入れば「酒が飲める」「旅行に行ける」というメリットとされていたことが、今は消防団に入れば「酒を飲まされる」「旅行に行かされる」というデメリットに変わってしまったと言われております。

いくつかある例の中で私が最も着目しているこ

とは、以前当地域では「消防団に誘われたら一人前」という言葉があり、消防団員になれるということはその地域全体に認められたということで家族が一番に喜び、消防団に入団すること自体が報酬の有無に関わらず家族を含めた大きなメリットであったとされており、私が入団した当時は正しくそのような時代でした。

しかし今では、本人にとってのメリットの有無は別として、家族（特に配偶者）にはデメリットしかないという風潮が定着しているようで、「家族に反対されたので」という言葉をよく耳にします。

私は何年も前から消防団活動を行ううえで家族の理解は必要不可欠と考えており、理解を得る方法について町長と協議を重ねてきました。

その結果、本町消防団では平成25年度より主に消防団の家族を対象にした支援制度を創設し、消防団員確保に向けた対策はもちろんのこと既存団員の処遇改善にも本格的に取り組んでいくこととなりました。

具体的な内容は今後さらに協議を重ねて決定していくこととなりますが、厳しい財政の中、我々消防団員のための予算確保に英断を下した町長の意を強く受け止め、全力で取り組んでいきたいと考えております。

最後に、ボランティアの中には無償ボランティアという言葉があり、実際に何人かに1人はこの精神をお持ちですが、現実には消防団員が減少しているという統計を見ますと、今後この精神のみを当てにした消防団員確保は残念ながら見込むことができないでしょう。

人によってはこの精神を持った少数精鋭の消防団で十分という考え方をお持ちの方もおられますが、このことは我々消防団員が判断することではなく、有事の際に消防団員を必要とする方々が判断し、その判断結果が今以上の消防団員が必要というものとなれば、その方々が本町町長と同じような対策を行うべきと考えます。

福祉共済・火災共済・個人年金

（財）日本消防協会 会長 秋本 敏文

今年4月1日、総務大臣の認可により福祉共済等を特定保険業として継続実施することが認められました。保険業法の改正によって、いつの間にか日消のような公益法人は共済事業を実施できないことにされてしまったのですが、同様の事態になっていた他の団体と一緒にこれをまき返してもう一度法律改正をして、国の認可を得れば継続実施できるということにしました。それから少々時間がかかりましたが、とに角、国の認可を頂いてこれからは福祉共済等の共済事業を実施できることになりました。このことの重要性は申しあげてもないでしょうが、消防団員等の総合的な福祉を考えるうえで、福祉共済は欠かすことができません。東日本大震災の際は、余りにも多数の方々が殉職されましたので、給付の減額など大変つらい決定をせざるを得ないこととなりましたが、それも将来のことを考えれば何とかして福祉共済を維持しなければならないという思いからでした。万が一の殉職という事態の時、公務災害補償にプラスする福祉共済の給付は貴重です。傷害をお受けになった時、病気で亡くなった時などの給付もあります。これが皆さんの加入によって比較的 low な掛金で運営することができています。

生活協同組合方式で運営している火災共済は、給付倍率を従来より5割増しにして、他の保険等に負けない内容にしました。これも思いがけない火災などの時にお役に立ちます。

これまで互助年金という名称で運営してきた年金事業は、このたび、おひとりおひとりの積立型年金という実態に合わせて名称を消防個人年金に改めますとともに、掛金はこれまでの年2回払だけでなく、月払いも一時払いもできるように、掛金の額も選択の幅をひろげるようにしました。この年金は、掛金を払う若い時には大変でしょうが、高齢になった時は、公的年金を補ってくれる貴重なものになります。

この火災共済と年金は、以前と比べると加入者が減っているのですが、このような事業では、できるだけたくさんの皆さんに加入して頂くことが必要です。以上に申しあげた制度の改善は、多くの皆さんに加入して頂けるよう、加入しやすい制度にすることをめざしたものです。

日本消防協会は、全国消防操法大会や女性消防団員活性化全国大会の開催、消防団の装備の改善などについての国への意見表明などいろいろなことをしていますが、今回申しあげた福祉共済、火災共済や年金も大事な事業です。本当に消防団員等の皆さんに評価して頂けるようにこれからも制度の改善などに努力しますので、できるだけ多くの皆さんに加入して頂くことができますよう、よろしくお願ひします。

平成25年度（財）日本消防協会事業計画 について

（財）日本消防協会

1 会議

次の会議を開催し、会務の発展を図る。

- (1) 正・副会長会議 [平成25年5月、平成26年2月、その他随時]
- (2) 理事会 [平成25年5月、平成26年2月、その他随時]
- (3) 代議員会 [平成25年5月、平成26年2月]
- (4) 都道府県消防協会事務局長会議 [平成26年2月]
- (5) 福祉共済事業等運営委員会 [平成25年5月、平成26年2月、その他随時]
- (6) 地震等防災対策委員会 [随時]
- (7) 女性消防団員確保対策委員会 [随時]
- (8) 全国消防操法大会運営委員会 [平成25年4月]
- (9) 消防団120年・自治体消防65周年記念事業実行委員会 [平成25年9月、その他随時]
- (10) 消防団活動服検討委員会 [随時]

2 全国消防大会（優良消防団表彰等）

以下の事業を一体として実施する。

- (1) 優良消防団（員）等表彰
 - ① 定例表彰 [平成26年2月]
表彰規程等に基づき消防活動等に功績のあった団体及び個人を表彰する。
 - ② 特別表彰 [随時]
現場功勞のあった団体・個人及び消防業務に特別に功勞のあった者を表彰する。
- (2) 講演会 [平成26年2月]
消防防災に関する講演を定例表彰と併せて実施する。

3 消防団多機能型車両の交付事業

災害時の救助活動などにも使用できるよう、小型動力ポンプ、救助資機材等を搭載した多機能型車両の交付を平成25年度も実施する。

4 消防団員等技術向上対策

- (1) 全国の女性消防団員の消防技術の向上と士気の高揚を図ることを目的に、全国女性消防操法大会を実施する。[平成25年10月17日]
- (2) 都道府県ごとに開催される消防操法大会に援助金を交付するとともに、表彰旗を更新（平成24、25年度）する。
- (3) 都道府県消防協会と連携し、消防団員指導員の養成を行う研修を実施する。

5 消防団員等確保事業

- (1) 消防団員等の士気高揚を図り、団員等の確保に資するため、全国的に著名な人々の協力を得て消防広報、消防団員の激励等を推進する。
- (2) 女性消防団員10万人の確保を目標として普及広報及び啓発活動を積極的に推進する。
 - ① 女性消防団リーダー会議を実施する。
 - ② 確保啓発活動を推進する。[随時]
- (3) 消防団員確保対策の一環として、デザイン性・機能性に優れた活動服を検討する。
- (4) 消防団員確保のための総合的対策に関するシンポジウムの開催（10(3)再掲）を通じ、広く関係者と協議を行い、当協会の意見をとりまとめる。

6 消防団幹部特別研修

消防団の上級幹部団員を各都道府県より1名選抜し、指導者養成のための特別研修を実施する。[平成26年1月14日～17日]

7 消防団幹部候補中央特別研修

消防団員を各都道府県より選抜し、幹部候補の育成を図るための研修を男女別に実施する。[平成26年2月5日～7日、12日～14日]

8 少年消防クラブ活性化事業

関係機関と連携し、少年消防クラブ活動の活性化を推進する。[通年]

9 地震等防災対策

- (1) 東日本大震災後の我が国消防のさらなる充実強化を推進する。
- (2) 現地調査を含め、地震等の災害対策のあり方につき調査、検討を行う。

10 消防団120年・自治体消防65周年記念事業

消防団120年・自治体消防65周年を記念し、以下の事業を実施する。

- (1) 「消防 その愛と力」をスローガンに、全国の消防職団員の士気の高揚を図るとともに、消防の役割や消防団の重要性を広く国民にアピールするための全国的規模の記念大会（及び記念表彰）を実施する。[平成25年11月25日（月） 東京ドーム]
- (2) 記念大会の開催についてポスター等による広報活動を積極的に行うほか、記念大会の意義等について広く国民に周知されるよう記録映像及び記念誌を作成・配布する。
- (3) 消防団員確保のための総合的対策をテーマとした記念シンポジウム（事例報告及びパネルディスカッション）を開催する。[平成25年5月22日 ニッショーホール]
- (4) 記念章等の記念グッズを制作・販売する。

11 消防広報

消防団に関する情報提供を積極的に行うため、広報の充実を図る。

- (1) 機関誌「日本消防」の発行 [通年]
- (2) ホームページの充実を図り、日本消防協会の事業等について広報に努めるとともに、消防団員確保等全国の消防団の活動状況に係る情報を提供し、消防団相互の情報交流を積極的に推進する。[通年]

- (3) 消防団活動を広報し、消防団員の確保等に資するため、消防応援団員、消防団員等の出演によるラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」（全国30局ネットによる毎週放送）を実施する。[毎週]
- (4) 消防団情報プラザを活用し、消防団に関する情報発信の充実を図る。[通年]

12 日中韓消防交流事業

中国及び韓国の消防関係者との交流を深めるため、次の事業等を実施する。

- (1) 第28回中国消防事情調査 [未定]
- (2) 日中消防協会定期協議会（東京） [平成25年9月17日]
- (3) 日中韓消防協会会議（韓国） [平成25年12月]
- (4) 中国消防協会研修視察団の受け入れ [平成26年3月]

13 消防国際交流事業

海外消防事情調査をするほか、CTIF（国際消防救助協会）の会議等に参加し、海外の消防機関との情報交流等を実施し、消防の国際化を推進する。

- (1) CTIF女性消防隊員ワーキンググループ会議（セルビア）[平成25年4月]
- (2) CTIF総会、青少年消防オリンピック視察（フランス）[平成25年7月]
- (3) 海外消防事情調査（欧州）[平成26年1月]

14 消防車両等国際援助事業

開発途上国に日本の中古消防車両を援助する。[通年]

15 消防団員等福祉共済事業

消防団員等が死亡し又は障害を受けた場合等に、その家族の生活を守るとともに、消防団員等の福祉を増進する総合的な共済として円滑に推進する。

- (1) 消防団員の福祉共済への全員加入の推進
- (2) 弔慰金、遺族援護金又は入院見舞金等の共済金の支払の迅速化
- (3) 消防団員等の福祉の増進を目的として実施する各種福祉増進事業の円滑な実施

16 消防団員等健康増進事業

- (1) 消防団員等の健康増進及び公務災害の事故防止を図るため、都道府県消防協会を通じて体脂肪計の配布を行うとともに、都道府県消防協会が行う健康器具の購入等を助成する。
- (2) 福祉共済制度等の情報を提供するため、「いきいき消防」の発刊を行う。[年4回]

17 消防団員加入促進事業

- (1) 福祉共済事業への加入推進と制度の維持発展を図るため、消防車両及び新規に入団した女性消防団員に対して制服等の消防資器材等を交付する。[通年]
- (2) 全国女性消防団活性化岐阜大会を開催する。[平成25年10月30日]
- (3) 新時代に対応した消防団の具体的な運営方策に関する研修を実施する。[随時]

18 消防殉職者慰霊事業

- (1) 全国の消防殉職者（消防団員・消防職員・一般協力者）の慰霊祭を日本消防会館において実施する。[平成25年9月12日]
- (2) 都道府県消防協会が行う消防殉職者慰霊祭等の実施に対し補助金を交付する。[随時]

19 大規模災害活動に対する支援

- (1) 災害対策支援金の交付 [随時]
大規模な災害の発生に際し、災害活動の情報収集にあたりとともに、被災地の消防団へ災害対策支援金を交付する。
- (2) 非常用食料等の交付 [随時]
大規模な災害の発生に際し、必要に応じ非常用食料等を交付する。

20 婦人消防隊員等福祉共済事業

婦人消防隊員等の福祉の増進を図るため、婦人消防隊員等福祉共済事業を円滑に推進する。[通年]

21 防火防災訓練災害補償等共済事業

市区町村及び組合が防火防災訓練の際における事故について損害賠償又は災害補償を行う場合に、その負担をてん補することを目的とした防火防災訓練災害補償等共済事業を円滑に推進する。[通年]

22 共済事業の継続実施に向けての対応

消防団員等福祉共済事業、婦人消防隊員等福祉共済事業及び防火防災訓練災害補償等共済事業について、保険業法等の一部を改正する法律に基づく主務大臣の認可を得、継続事業として実施するための準備を進める。

23 消防互助年金事業・消防個人年金事業

消防職員団の老後の生活の安定と福祉の向上を目的とした消防互助年金事業を円滑に推進する。また、名称を消防個人年金に改めるとともに、近年の加入者の大幅な減少などを踏まえ、若い消防職員団員が加入しやすくなるよう、保険料の払込み方法等を改正した上で、消防個人年金事業としてより一層推進する。[通年]

24 日本消防会館の運営

日本消防会館における各種設備機械類維持管理及び各テナントや消防団情報プラザ等の適切な管理を行うとともに、会館内の執務環境の充実に努め、併せてニッショーホール及び貸会議室等の健全な運営を図る。[通年]

25 消防関係団体に対する事業協力

- (1) 公益財団法人消防育英会の東日本大震災消防殉職者遺児育英奨学基金等に協力する。
- (2) 生活協同組合全日本消防人共済会に対し事業協力する。
- (3) 全国消防殉職者遺族会に対し事業協力する。

26 その他

公益財団への移行を前提にその準備を進めるとともに、厳しい財政環境を踏まえ、引き続き事務事業の見直し、経費の削減合理化を図る一方、財源確保に努める。

消防互助年金の改正のお知らせ

(財)日本消防協会

「消防互助年金」は、現在ご加入いただいております皆様はもとより、消防団員及び消防職員の皆様の利便性を大幅に向上するために、掛金の払込方法に月払や一時払を設けるなどの改正を行い、平成25年7月1日から「消防個人年金」として新たにスタートいたします。

その概要は、次のとおりです。詳しくは、日本消防協会ホームページ (<http://www.nissho.or.jp/>) をご覧ください。

1 掛金の払込方法

- (1) 月払、半年払又は月払・半年払併用払から選択できます。
 - ① 月 払：10口1万円から（ゆうちょ銀行の口座からの振替の場合には5口5千円から）200口20万円まで（千円単位）
 - ② 半年払：10口1万円から1,000口100万円まで（千円単位）
 - ③ 月払・半年払併用払：それぞれ①と②に同じ。
- (2) 加入時、払込期間中又は払込終了時に、まとまった資金を払い込む一時払ができます（(1)のいずれかの払込方法を選択している方に限ります）。

一時払：10口10万円から1,000口1千万円まで（1万円単位）

2 掛金の口座振替日（振替日が土・日・祝日の場合には、次の銀行営業日）

- ① 月 払：毎月26日
- ② 半年払及び一時払：1月26日と7月26日

3 年金の支払日

毎年3月、6月、9月及び12月の各15日に、当月分までの3箇月分をそれぞれお支払いします（支払日が土・日・祝日の場合には、前の銀行営業日）。

4 新規加入の申込み

加入日は、毎年1月1日及び7月1日の年2回です。平成26年1月1日からの加入を希望される方は、平成25年10月31日までに加入申込書をご提出ください。なお、加入後の最初の掛金の口座振替日は、平成26年1月27日（月）です。

被災地に消防車両を寄贈

（株）パトライト社より、東日本大震災で被害が甚大であった消防機関に対し消防車両の寄贈の申し出があり、日本消防協会が橋渡し役となり、消防車両が寄贈されました。

寄贈を受けた宮城県亘地区行政組合消防本部 齋藤管理者から「いただいた車両を広く活用し、地域の安心安全に役立てていきます。」

岩手県陸前高田市 戸羽市長から「皆さんの優しい気持ちに感謝し、思いにこたえられるよう前を向いて頑張りたい」とそれぞれお礼の言葉がありました。



平成25年3月12日（火）に行われた亘地区行政組合消防本部の受納式



平成25年3月13日（水）に行われた陸前高田市消防団の受納式

ラジオ番組「おはよう！ニッポン全国消防団」 出演者紹介

(財)日本消防協会



平成25年1月放送分に
出演の消防応援団
沢田亜矢子さん

1月12日又は1月13日放送



愛知県刈谷市消防団 第11分団
分団長 長谷川 一基さん

ラジオ出演「でら楽しかった」です。
消防団のPRには絶好の機会になりました。これからも私たち消防団員の活動を1人でも多くの方に知ってもらい、住民の方々が安心して暮らせる刈谷市となるよう一丸となって頑張っていきます。
「目指せ！日本一の刈谷市消防団」

1月19日又は1月20日放送



神奈川県厚木市消防団
団長 堀池 春夫さん

全国88万人の消防団員の中から、この番組に出演できたことを光栄に思います。
今後も地域の安心・安全を守るためがんばりたいと思います。

1月26日又は1月27日放送



香川県高松市消防団
部長 中桐 浩代さん

沢田さんのハツラツとした明るい声に元気をもらいました。
ラジオを聞いてくれた人が入団してくれるのを待ってま～す。

平成25年2月放送分
出演の消防応援団
ジュディ・オングさん



2月2日又は2月3日放送



石川県珠洲市消防団
班長 大野 長一郎さん

全国の消防団員を代表して、このような対談の場に参加できたことをとても嬉しく思います。
今後も消防団活動にて地域防災に貢献できるようがんばります。

2月16日又は2月17日放送



千葉県四街道市消防団
分団長 濱田 昌孝さん

今回のラジオ出演では緊張して声が震えそうになりました。
放送を聞いて消防団に関心を持ってくれることを期待し、これからも地域の防災リーダーとして「市民の安全・安心」を守るため頑張りたいと思います。

2月9日又は2月10日放送



大分県臼杵市連合消防団野津消防団
第4分団長 竹尾 幸三さん

ラジオ番組で愛する我が消防団のPRの機会！
ジュディ・オングさんと山本アナに助けられながら、緊張の中収録完了しました。
消防団に対する情熱がうまく伝えられなかったけれど、これからも市民の生命・財産を守るため消防団活動を続けていきます。

2月23日又は2月24日放送



奈良県橿原市消防団 第10分団
分団長 中平 えり子さん

凄く緊張しましたが良い経験をさせて戴きました。
ジュディ・オングさんの優しい声が耳に残っています。
今年10月に私達女性分団の車庫が出来ます。
ここを拠点に、新しい予防啓発活動に取り組みたいと思っています。
良い情報があればご指導くださいね。
本当に有難うございました。



平成25年3月放送分に
出演の消防応援団
菅原文太さん

3月2日又は3月3日放送



岩手県大槌町消防団
部長 鈴木 亨さん

小学生の時、映画トラック野郎で見た菅原文太さんと対談出来て嬉しく思っております。

菅原さんには、東日本大震災津波被災地の復興状況を心配していただき、更には日消や国に対する我々現場の団員の要望を伝えてくれるとの心強いお言葉をいただきました。

被災地の復興はまだまだ先ですが、菅原さんはじめ消防応援団の皆様のエールを背に消防団活動を続けて行きたいと思っております。

3月9日又は3月10日放送



福島県南相馬市消防団
副団長 長澤 初男さん

菅原文太さんは、仙台市出身で同じ東北人として気軽にお話し出来ました。原発事故等を心配され温かいご声援を頂き感謝です。

被災地で頑張る消防団員に、何よりの励ましです。当地にも是非お越し下さい。ありがとうございました。

3月16日又は3月17日放送



宮城県山元町消防団
団長 伊藤 由信さん

前向きに、着実に復興へ向けて歩を進めていきたいと考えております。全国の皆様のご支援とご協力に、衷心より感謝と御礼を申し上げます。

平成25年3月・4月放送分に出演の消防応援団
堀江謙一さん



3月23日又は3月24日放送



茨城県大洗町消防団
第3分団
分団長
高橋 満さん

自ら、大洗町の被害状況などを話せたので良かったです、これを期に消防団と町民との信頼がより深まり、私にとって一生に一度の経験をしました。

3月30日又は3月31日放送



千葉県旭市消防団
副団長 加瀬 一雄さん

この度は、番組に出演させていただき有難うございました。

旭市も復興に向けて避難タワーの建設、避難誘導路の計画等着々と進めております。私たち消防団員も、地域の安全・復興のため頑張っていきたいと思っております。

4月6日又は4月7日放送



宮城県大崎市消防団
本部分団長 鈴木 博行さん

日本最強のボランティア集団＝消防団だと自分では認識しております。全国の消防団員との架け橋の為に、末永い番組放送をお願い致します。

4月13日又は4月14日放送



熊本県湯前町消防団 ラッパ隊
隊長 中神 正さん

ラジオ出演にあたりかなり緊張して、自分でも何を言っているか分かりませんでした。堀江謙一さんのトークのお陰で楽しい思い出となりました。12月はラッパ吹奏大会が開催されます。6連覇に向けてこれからラッパの練習を頑張っていきたいと思っております。

4月20日又は4月21日放送



兵庫県神戸市灘消防団
班長 横山 美津子さん

神戸市灘消防団は応手当普及員の資格を持つ団員が、地域住民に対して救急講習を勢力的に実施しており、昨年は、60回、1,921名に対して指導しました。今後も団員として、郷土愛の精神で地域の安全、安心を守っていきたくと思っております。

**おはよう！ニッポン全国消防団
放送局・放送時間**

放送局	放送曜日	放送時間	放送局	放送曜日	放送時間
(株)ニッポン放送	日	6:15～6:25	(株)和歌山放送	土	6:30～6:40
(株)STVラジオ	日	5:50～6:00	(株)山陰放送	日	8:15～8:25
青森放送(株)	日	7:20～7:30	(株)中国放送	日	5:30～5:40
(株)IBC岩手放送	日	6:15～6:25	山口放送(株)	土	6:45～6:55
東北放送(株)	土	5:00～5:10	四国放送(株)	土	6:40～6:50
(株)秋田放送	日	6:15～6:25	西日本放送(株)	土	7:35～7:45
山形放送(株)	日	6:20～6:30	南海放送(株)	日	8:50～9:00
(株)ラジオ福島	土	5:40～5:50	(株)高知放送	日	6:40～6:50
(株)新潟放送	日	7:40～7:50	九州朝日放送(株)	日	6:15～6:25
信越放送(株)	日	6:50～7:00	長崎放送(株)	土	7:25～7:35
北日本放送(株)	日	6:10～6:20	(株)熊本放送	土	5:30～5:40
北陸放送(株)	日	7:30～7:40	(株)大分放送	日	6:45～6:55
福井放送(株)	日	6:10～6:20	(株)宮崎放送	日	6:20～6:30
東海ラジオ放送(株)	日	6:00～6:10	(株)南日本放送	日	8:30～8:40
大阪放送(株)	土	6:45～6:55	(株)ラジオ沖縄	日	6:35～6:45

平成24年度消防功労者消防庁長官表彰

総務省 消防庁

消防記念日（3月7日）にちなみ、3月6日（水）に「平成24年度消防功労者消防庁長官表彰式」が行われました。この表彰式において受章された消防団員は次のとおりです。

功労章を授与する消防団員（70名）			都道府県名	所 属	階 級	氏 名
北海道	歌志内市消防団	団長	静岡県	島田市消防団	団長	石 己 相 郎
〃	遠軽地区広域組合佐呂間町消防団	団長	愛知県	名古屋市富士見台消防団	団長	石 立 足 正
〃	池北三町行政事務組合本別消防団	団長	〃	稲沢市消防団	団長	石 黒 黒 幸
〃	函館市南茅部消防団	団長	〃	豊明市消防団	団長	桶 信 垣 彦
〃	日高東部消防組合様似町消防団	団長	〃	津島市消防団	団長	結 谷 和 英
〃	北留萌消防組合遠別町消防団	団長	〃	名古屋市中区正保消防団	団長	丸 井 九 利
〃	網走地区消防組合東藻琴消防団	団長	滋賀県	湖南市消防団	団長	木 次 中 隆
〃	岩内・寿都地方消防組合共和消防団	団長	京都府	宮津市消防団	団長	西 光 中 隆
〃	北後志消防組合余市消防団	団長	〃	京都市南区消防団	団長	山 好 田 健
青森県	弘前市消防団	団長	大阪府	守口市消防団	団長	山 貞 田 雄
〃	中泊町消防団	団長	〃	交野市消防団	団長	辻 一 二 一
〃	南部町消防団	団長	〃	富田林市消防団	団長	口 之 勝 昭
岩手県	山田町消防団	団長	兵庫県	豊岡市倶東消防団	団長	坂 政 岡 健
〃	盛岡市消防団	団長	〃	豊岡市日高消防団	団長	長 岡 望 健
秋田県	にかほ市消防団	団長	〃	赤穂市消防団	団長	月 昌 果 次
〃	横手市大森消防団	団長	奈良県	川上村消防団	団長	山 秀 果 夫
山形県	天童市消防団	団長	和歌山県	湯浅町消防団	団長	松 康 野 雄
福島県	富岡町消防団	団長	鳥取県	南部町消防団	団長	宇 弘 字 川 弘
〃	南会津町消防団	団長	鳥根県	松江市消防団	団長	松 嘉 浦 省
〃	三春町消防団	団長	〃	雲南市消防団	団長	三 浦 三 省
茨城県	神栖市消防団	団長	岡山県	浅口市消防団	団長	遠 純 藤 二
埼玉県	神川町消防団	団長	山口県	平生町消防団	団長	伊 親 田 勇
〃	久喜市栗橋消防団	団長	徳島県	美波町消防団	団長	悦 明 田 明
〃	南房総市消防団	団長	〃	阿南市消防団	団長	中 正 川 元
〃	酒々井町消防団	団長	高知県	大川村消防団	団長	岩 崎 中 正
東京都	小平市消防団	団長	〃	香南市吉川消防団	団長	中 則 元 夫
〃	大井消防団	団長	佐賀県	唐津市相知消防団	団長	江 昭 口 昭
〃	矢口消防団	団長	〃	上峰町消防団	団長	大 彦 坪 彦
新潟県	長岡市消防団	団長	〃	基山町消防団	団長	岡 安 岡 彦
〃	十日町市消防団	団長	長崎県	西海市消防団	副団長	今 和 川 相
富山県	射水市消防団	団長	熊本県	熊本市消防団	副団長	山 治 本 彦
〃	魚津市消防団	団長	宮崎県	日向市消防団	団長	日 繁 高 彦
石川県	羽咋市消防団	団長	〃	国富町消防団	団長	松 昭 枝 生
長野県	上田市消防団	団長	鹿児島県	日置市消防団	団長	山 次 由 幸
岐阜県	坂祝町消防団	団長	〃	薩摩川内市消防団	団長	薬 正 師 司

永年勤続功労章を授与する消防団員（1,730名）

都道府県名	所属	階級	氏名
北海道	南十勝消防事務組合更別消防団	団長	太田 智 範
〃	斜里地区消防組合小清水消防団	団長	奥村 寛 寛
〃	大雪消防組合東川消防団	団長	金盛 勇 松
〃	千歳市消防団	団長	橋本 二 二
〃	釧路市消防団	団長	林 勝 弘
〃	胆振東部消防組合厚真消防団	副団長	五十嵐 次 男
〃	遠軽地区広域組合湧別町消防団	副団長	伊藤 勝 務
〃	上川北部消防事務組合美深消防団	副団長	大塚 博 一
〃	稚内地区消防事務組合稚内消防団	副団長	大野 秀 樹
〃	北見地区消防組合香呂消防団	副団長	小形 彩 良
〃	渡島西部広域事務組合苫内消防団	副団長	笠松 彰 彰
〃	岩内・寿都地方消防組合黒松内消防団	副団長	勇 豊 豊
〃	利尻礼文消防事務組合利尻富士町消防団	副団長	神成 一 夫
〃	南渡島消防事務組合北斗消防団	副団長	木村 英 孝
〃	胆振東部消防組合穂別消防団	副団長	兒玉 義 義
〃	小樽市消防団	副団長	齋藤 周 司
〃	石狩北部地区消防事務組合石狩消防団	副団長	酒井 幸 治
〃	紋別地区消防組合西興部消防団	副団長	坂本 安 宏
〃	帯広市消防団	副団長	佐久間 勇 男
〃	歌志内市消防団	副団長	佐藤 哲 朗
〃	北後志消防組合余市消防団	副団長	佐藤 十三 男
〃	遠軽地区広域組合遠軽町消防団	副団長	佐藤 義 美
〃	函館市函館消防団	副団長	重島 幸 夫
〃	上川中部消防組合上川消防団	副団長	鈴木 一 功
〃	紋別地区消防組合興部消防団	副団長	鈴木 東 記

都道府県名	所属	階級	氏名
北海道	釧路東部消防組合釧路消防団	副団長	竹内 治 治
〃	池北三町行政事務組合陸別消防団	副団長	田上 勇 雄
〃	南空知消防組合長沼消防団	副団長	中野 芳 雄
〃	東十勝消防事務組合池田消防団	副団長	野澤 津 彦
〃	函館市恵山消防団	副団長	新島 隆 輔
〃	大雪消防組合美瑛消防団	副団長	濱田 詞 詞
〃	西十勝消防組合新得消防団	副団長	廣瀬 順 嗣
〃	檜山広域行政組合上ノ国町消防団	副団長	福原 博 博
〃	士別地方消防事務組合士別市消防団	副団長	藤原 雄 雄
〃	西胆振消防組合伊達消防団	副団長	藤原 雄 文
〃	北見地区消防組合北見消防団	副団長	古野 敏 夫
〃	胆振東部消防組合安平消防団	副団長	町田 重 人
〃	深川地区消防組合深川消防団	副団長	松本 三 憲
〃	南空知消防組合南幌消防団	副団長	三輪 重 夫
〃	北留萌消防組合苦前町消防団	副団長	三輪 重 夫
〃	留萌消防組合留萌消防団	副団長	室田 博 博
〃	北留萌消防組合羽幌消防団	副団長	森 浮 浮
〃	斜里地区消防組合清里消防団	副団長	崎正 章 章
〃	南宗谷消防組合枝幸消防団	副団長	山口 晴 己
〃	留萌消防組合小平消防団	副団長	山崎 好 好
〃	士別地方消防事務組合剣淵町消防団	副団長	山崎 好 好
〃	砂川地区広域消防組合浦臼消防団	副団長	渡邊 彦 彦
〃	北十勝消防事務組合鹿追消防団	分団長	秋葉 野 次
〃	檜山広域行政組合江差町消防団	分団長	浅野 清 吉
〃	江別市消防団	分団長	井嶋 保 治
〃	八雲町熊石消防団	分団長	泉 祐 祐

都道府県名	所属	階級	氏名
北海道	檜山広域行政組合今金町消防団	分団長	上田 富 男
〃	美幌・津別広域事務組合津別消防団	分団長	内田 憲 造
〃	増毛町消防団	分団長	大石 忠 幸
〃	東十勝消防事務組合幕別消防団	分団長	笑坂 和 雄
〃	札幌市北消防団	分団長	大澤 健 一
〃	芦別市消防団	分団長	野野 英 一
〃	江別市消防団	分団長	金子 善 一
〃	札幌市白石消防団	分団長	金子 芳 和
〃	日高中部消防組合三石消防団	分団長	川端 義 幸
〃	札幌市西消防団	分団長	木村 和 則
〃	白老町消防団	分団長	木村 信 四郎
〃	札幌市中央消防団	分団長	木村 誠 誠
〃	八雲町八雲消防団	分団長	榎 啓 治
〃	南十勝消防事務組合大樹消防団	分団長	小室 平 武
〃	檜山広域行政組合奥尻町消防団	分団長	小濱 正 人
〃	士別地方消防事務組合士別市消防団	分団長	小濱 英 雄
〃	北後志消防組合赤井川消防団	分団長	佐々木 優 優
〃	羊蹄山ろく消防組合蘭越消防団	分団長	佐藤 信 隆
〃	利尻礼文消防事務組合利尻町消防団	分団長	佐藤 貴 貴
〃	室蘭市消防団	分団長	澤口 政 幸
〃	札幌市中央消防団	分団長	下田 富 雄
〃	日高西部消防組合平取消防団	分団長	白井 勝 博
〃	美瑛市消防団	分団長	白井 晴 志
〃	上川北部消防事務組合七飯消防団	分団長	鈴木 政 幸
〃	南渡島消防事務組合七飯消防団	分団長	須藤 信 幸
〃	旭川市消防団	分団長	砂田 信 一

都道府県名	所属	階級	氏名
北海道	登別市消防団	分団長	高橋 樹 樹
〃	根室北部消防事務組合羅臼消防団	分団長	高橋 茂 則
〃	稚内地区消防事務組合猿払消防団	分団長	高橋 誠 誠
〃	白糠消防団	分団長	高橋 好 好
〃	北広島市消防団	分団長	高橋 昌 志
〃	赤平市消防団	分団長	高橋 藤 昌
〃	渡島西部広域事務組合松前消防団	分団長	滝谷 清 一
〃	富良野広域連合上富良野消防団	分団長	立松 幸 幸
〃	札幌市豊平消防団	分団長	土田 寿 夫
〃	網走地区消防組合女満別消防団	分団長	土屋 佳 信
〃	釧路北部消防事務組合弟子屈消防団	分団長	岡井 庄 義
〃	岩内・寿都地方消防組合寿都消防団	分団長	岡寺 門 博
〃	小樽市消防団	分団長	土井 康 晴
〃	砂川地区広域消防組合奈井江消防団	分団長	中東 尊 尊
〃	根室北部消防事務組合別海消防団	分団長	中村 清 一
〃	日高東部消防組合浦河町消防団	分団長	中村 英 雄
〃	根室市消防団	分団長	中村 正 勝
〃	日高西部消防組合日高消防団	分団長	西尾 英 俊
〃	滝川地区広域消防事務組合滝川消防団	分団長	西村 洋 洋
〃	南十勝消防事務組合広尾町消防団	分団長	西村 洋 洋
〃	上川北部消防事務組合名寄消防団	分団長	西村 洋 洋
〃	胆振東部消防組合越川消防団	分団長	福井 勝 美
〃	旭川市消防団	分団長	福井 清 和
〃	釧路東部消防組合浜中消防団	分団長	福井 枝 勝
〃	長万部町消防団	分団長	松浦 邦 弘
〃	釧路市消防団	分団長	藤 義 義

都道府県名	所 属	階 級	氏 名
北海道	上川北部消防事務組合中川消防団	分団長	宮 政 義
	〃 網走北部消防事務組合標茶消防団	分団長	森 田 誠 一
	〃 札幌市北消防団	分団長	柳 沢 敏 彦
	〃 岩内・寿都地方消防組合岩内消防団	分団長	柳 堀 昭 彦
	〃 岩見沢地区消防事務組合岩見沢消防団	分団長	山 崎 三 幸
	〃 小樽市消防団	分団長	余 湖 孝 享
	〃 北後志消防組合横丹消防団	分団長	吉 田 敏 文
	〃 恵庭市消防団	副分団長	漆 崎 勇 一
	〃 南宗谷消防組合中頓別消防団	副分団長	杉 水 正 治
	〃 根室北部消防事務組合標津消防団	副分団長	戸 田 雅 彦
	〃 日高中部消防組合新冠消防団	副分団長	長 浜 徳 行
	〃 檜山広域行政組合せたな町瀬棚消防団	副分団長	中 村 満 雄
	〃 苫小牧市消防団	副分団長	福 井 徳 志
	〃 根室北部消防事務組合中標津消防団	分団長	松 本 仁 治
	青森県	青森市青森消防団	団長
〃 鶴田町消防団	団長	山下 正 彦	
〃 今別町消防団	副団長	相 内 武 光	
〃 弘前市消防団	副団長	伊 藤 公 正	
〃 平内町消防団	副団長	江 戸 照 正	
〃 東北町消防団	副団長	蛇 名 善 二	
〃 八戸市消防団	副団長	大 船 恒 夫	
〃 むつ市消防団	副団長	菊 池 郁 夫	
〃 弘前市消防団	副団長	工 藤 昭 善	
〃 十和田市消防団	副団長	工 藤 昇 一	
〃 弘前市消防団	副団長	小 嶋 勇 成	
〃 風間浦村消防団	副団長	駒 嶺 敏 昭	

都道府県名	所 属	階 級	氏 名
青森県	八戸市消防団	副団長	榮 田 正 勝
	〃 八戸市消防団	副団長	野 田 博 一
	〃 むつ市消防団	副団長	濱 村 貞 敏
	〃 新郷村消防団	副団長	福 上 義 徳
	〃 弘前市消防団	副団長	三 上 均 一
	〃 田子町消防団	副団長	村 木 勉 一
	〃 つがる市消防団	分団長	秋田谷 次 廣
	〃 深浦町消防団	分団長	秋 元 良 輝
	〃 五所川原市消防団	分団長	浅 利 清 美
	〃 青森市浪岡消防団	分団長	天 内 不 二 雄
	〃 大間町消防団	分団長	縦 谷 勲 一
	〃 野辺地町消防団	分団長	市ノ渡 廣 志
	〃 中泊町消防団	分団長	大 川 仁 志
	〃 三沢市消防団	分団長	小原 力 一
	〃 外ヶ浜町消防団	分団長	蠣 崎 真 一
〃 田舎館村消防団	分団長	葛 西 誠 司	
〃 つがる市消防団	分団長	葛 西 信 廣	
〃 黒石市消防団	分団長	工 藤 弘 一	
〃 三戸町消防団	分団長	工 藤 秀 一	
〃 青森市青森消防団	分団長	工 藤 善 一	
〃 五戸町消防団	分団長	久 保 久 一	
〃 蓬田村消防団	分団長	越 田 正 一	
〃 南部町消防団	分団長	坂 上 三 三 男	
〃 黒石市消防団	分団長	佐 藤 立 夫	
〃 つがる市消防団	分団長	杉野 元 一	
〃 六ヶ所村消防団	分団長	館 花 彦 一	

都道府県名	所 属	階 級	氏 名
青森県	佐井村消防団	分団長	館 脇 勝 義
	〃 七戸町消防団	分団長	附 田 長 治
	〃 平川市消防団	分団長	野 馬 孝 一
	〃 東通村消防団	分団長	戸 川 正 一
	〃 おいらせ町消防団	分団長	袴 田 信 男
	〃 六戸町消防団	分団長	高 山 敏 夫
	〃 五所川原市消防団	分団長	濱 田 隆 樹
	〃 南部町消防団	分団長	八木田 意 司
	〃 大鰐町消防団	分団長	山 内 高 信
	〃 青森市青森消防団	分団長	山 口 隆 治
	〃 むつ市消防団	分団長	山 谷 明 人
	〃 五戸町消防団	分団長	横 澤 進 幸
	〃 鯉ヶ沢町消防団	副分団長	今 正 江 一
	〃 十和田市消防団	副分団長	沢 目 勝 弘
	〃 横浜町消防団	副分団長	浜 辺 勉 一
〃 階上町消防団	副 長	内 城 弘 一	
岩手県	二戸市消防団	副団長	荒 井 善 正
	〃 遠野市消防団	副団長	菊 池 岩 男
	〃 金ヶ崎町消防団	副団長	高 橋 新 一
	〃 住田町消防団	副団長	高 橋 利 典
	〃 大船渡市消防団	副団長	高 橋 浩 智
	〃 遠野市消防団	副団長	福 地 孝 一
	〃 陸前高田市消防団	副団長	渡 邊 克 己
	〃 普代村消防団	分団長	赤 坂 敏 也
	〃 田野畑村消防団	分団長	秋 田 秀 昭
	〃 盛岡市消防団	分団長	浅 沼 清 興

都道府県名	所 属	階 級	氏 名
岩手県	一戸町消防団	分団長	岩 橋 一 郎
	〃 一関市消防団	分団長	岩 瀬 善 朗
	〃 奥州市消防団	分団長	及 川 景 孝
	〃 宮古市消防団	分団長	大 越 信 一
	〃 九戸村消防団	分団長	大 崎 茂 一
	〃 宮古市消防団	分団長	太 田 憲 一 郎
	〃 軽米町消防団	分団長	大谷地 房 一
	〃 紫波町消防団	分団長	小田中 光 雄
	〃 洋野町消防団	分団長	笠水士 利 一
	〃 釜石市消防団	分団長	川 崎 喜 久 治
	〃 紫波町消防団	分団長	川 原 一 文
	〃 遠野市消防団	分団長	菊 池 朝 一 男
	〃 奥州市消防団	分団長	菊 池 富 善
	〃 遠野市消防団	分団長	菊 池 久 人
	〃 宮古市消防団	分団長	北 村 徳 行
〃 久慈市消防団	分団長	藤 野 泰 雄	
〃 八幡平市消防団	分団長	工 藤 一 一	
〃 宮古市消防団	分団長	久保田 順 一	
〃 山田町消防団	分団長	佐 賀 祐 司	
〃 盛岡市消防団	分団長	坂 本 秀 明	
〃 釜石市消防団	分団長	坂 本 耕 太 郎	
〃 大船渡市消防団	分団長	佐々木 幸 夫	
〃 宮古市消防団	分団長	佐々木 知 宏	
〃 滝沢村消防団	分団長	佐 藤 桂 一	
〃 岩手町消防団	分団長	佐 藤 徳 泰	
〃 奥州市消防団	分団長	鈴 木 清 吉	

都道府県名 所 属	階 級	氏 名	都道府県名 所 属	階 級	氏 名
岩手県 一関市消防団	分団長	高橋 茂	岩手県 一関市消防団	副分団長	小野寺 勇
〃 北上市消防団	分団長	高橋 藤	〃 一関市消防団	副分団長	菊池 美喜雄
〃 岩泉町消防団	分団長	高橋 紀之	〃 一関市消防団	副分団長	佐々木 光男
〃 岩手町消防団	分団長	高橋 亮	〃 一関市消防団	副分団長	菅 晋
〃 八幡平市消防団	分団長	高橋 代	〃 一関市消防団	副分団長	菅 羽
〃 矢巾町消防団	分団長	谷村 謙一	〃 久慈市消防団	副分団長	富山 雄
〃 一関市消防団	分団長	谷村 修己	〃 一関市消防団	副分団長	平間 寛一
〃 奥州市消防団	分団長	谷村 謙一	〃 西和賀町消防団	部長	前田 京
〃 花巻市消防団	分団長	谷村 謙一	〃 七ヶ宿町消防団	団長	前田 謙
〃 花巻市消防団	分団長	谷村 謙一	〃 石巻市消防団	副団長	阿部 謙
〃 平泉町消防団	分団長	谷村 謙一	〃 登米市消防団	副団長	若沼 久
〃 野田村消防団	分団長	谷村 謙一	〃 女川町消防団	副団長	若沼 久
〃 宮古市消防団	分団長	谷村 謙一	〃 登米市消防団	副団長	若沼 久
〃 洋野町消防団	分団長	谷村 謙一	〃 登米市消防団	副団長	若沼 久
〃 葛巻町消防団	分団長	谷村 謙一	〃 石巻市消防団	副団長	若沼 久
〃 花巻市消防団	分団長	谷村 謙一	〃 登米市消防団	副団長	若沼 久
〃 雫石町消防団	分団長	谷村 謙一	〃 松島町消防団	副団長	若沼 久
〃 岩泉町消防団	分団長	谷村 謙一	〃 登米市消防団	副団長	若沼 久
〃 盛岡市消防団	分団長	谷村 謙一	〃 大崎市消防団	副団長	若沼 久
〃 宮古市消防団	分団長	谷村 謙一	〃 七ヶ浜町消防団	分団長	若沼 久
〃 盛岡市消防団	分団長	谷村 謙一	〃 仙台市秋保消防団	分団長	若沼 久
〃 盛岡市消防団	分団長	谷村 謙一	〃 大崎市消防団	分団長	若沼 久
〃 一関市消防団	副分団長	谷村 謙一	〃 多賀城市消防団	分団長	若沼 久
〃 一関市消防団	副分団長	谷村 謙一	〃 大崎市消防団	分団長	若沼 久
〃 久慈市消防団	副分団長	谷村 謙一	〃 栗原市消防団	分団長	若沼 久
〃 一関市消防団	副分団長	谷村 謙一	〃 塩竈市浦戸消防団	分団長	若沼 久
宮城県 仙台市秋保消防団	分団長	太田 敏	宮城県 大崎市消防団	分団長	中野 幸
〃 柴田町消防団	分団長	太田 敏	〃 白石市消防団	分団長	中野 幸
〃 白石市消防団	分団長	太田 敏	〃 仙台市秋保消防団	分団長	中野 幸
〃 大崎市消防団	分団長	太田 敏	〃 栗原市消防団	分団長	中野 幸
〃 名取市消防団	分団長	太田 敏	〃 仙台市宮城野消防団	分団長	中野 幸
〃 気仙沼市消防団	分団長	太田 敏	〃 川崎町消防団	分団長	中野 幸
〃 気仙沼市消防団	分団長	太田 敏	〃 栗原市消防団	分団長	中野 幸
〃 大崎市消防団	分団長	太田 敏	〃 蔵王町消防団	分団長	中野 幸
〃 栗原市消防団	分団長	太田 敏	〃 亶理町消防団	分団長	中野 幸
〃 大崎市消防団	分団長	太田 敏	〃 大河原町消防団	分団長	中野 幸
〃 山元町消防団	分団長	太田 敏	〃 仙台市太白消防団	分団長	中野 幸
〃 栗原市消防団	分団長	太田 敏	〃 大崎市消防団	分団長	中野 幸
〃 仙台市泉消防団	分団長	太田 敏	〃 大崎市消防団	分団長	中野 幸
〃 丸森町消防団	分団長	太田 敏	〃 大崎市消防団	分団長	中野 幸
〃 角田市消防団	分団長	太田 敏	〃 気仙沼市消防団	分団長	中野 幸
〃 大崎市消防団	分団長	太田 敏	〃 気仙沼市消防団	分団長	中野 幸
〃 大崎市消防団	分団長	太田 敏	〃 涌谷町消防団	分団長	中野 幸
〃 栗原市消防団	分団長	太田 敏	〃 美里町消防団	副分団長	中野 幸
〃 女川町消防団	分団長	太田 敏	〃 栗原市消防団	副分団長	中野 幸
〃 南三陸町消防団	分団長	太田 敏	〃 美里町消防団	副分団長	中野 幸
〃 石巻市消防団	分団長	太田 敏	〃 涌谷町消防団	副分団長	中野 幸
〃 大崎市消防団	分団長	太田 敏	〃 美里町消防団	副分団長	中野 幸
〃 村田町消防団	分団長	太田 敏	秋田県 湯上市消防団	副団長	石川 善太郎
〃 仙台市秋保消防団	分団長	太田 敏	〃 井川町消防団	副団長	石川 善太郎
〃 大和町消防団	分団長	太田 敏	〃 仙北市消防団	副団長	石川 善太郎
〃 南三陸町消防団	分団長	太田 敏	〃 仙北市消防団	副団長	石川 善太郎

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名
秋田県	大仙市消防団	副団長	田村 健 郎	秋田県	秋田市消防団	分団長	佐藤 隆 哉
〃	由利本荘市消防団	副団長	田原 由 彦	〃	横手市雄物川消防団	分団長	佐藤 政 和
〃	五城目町消防団	副団長	藤井 好 春	〃	大仙市消防団	分団長	佐藤 裕 茂
〃	秋田市消防団	副団長	古木 仁 春	〃	羽後町消防団	分団長	佐藤 良 文
〃	藤里町消防団	分団長	安 保 美 在 徳	〃	大仙市消防団	分団長	進 久 隆
〃	秋田市消防団	分団長	石塚 彌左衛門	〃	にかほ市消防団	分団長	須藤 淳 一
〃	八郎潟町消防団	分団長	伊藤 洋 一	〃	大館市消防団	分団長	高橋 久 夫
〃	由利本荘市消防団	分団長	遠藤 満 博	〃	上小阿仁村消防団	分団長	武石 忠 一
〃	大仙市消防団	分団長	大友 金 巳 知	〃	大館市消防団	分団長	山田 東 一
〃	美郷町消防団	分団長	奥 山 幸 誠	〃	湯沢市消防団	分団長	西成 嘉 一
〃	横手市山内消防団	分団長	小野寺 千代美	〃	横手市平鹿消防団	分団長	藤井 敬 司
〃	男鹿市消防団	分団長	加藤 勝 一	〃	北秋田市消防団	分団長	藤田 久 視
〃	由利本荘市消防団	分団長	工藤 金 一郎	〃	大湯村消防団	分団長	松橋 昭 裕
〃	横手市横手消防団	分団長	黒澤 善 一	〃	三種町消防団	分団長	三浦 達 雄
〃	能代市消防団	分団長	藤山 佳 克	〃	八峰町消防団	分団長	諸 澤 達 雄
〃	大仙市消防団	分団長	小松 強 一	〃	鹿角市消防団	分団長	山崎 敏 之
〃	美郷町消防団	分団長	斉藤 一 夫	〃	能代市消防団	分団長	山田 藤 雄
〃	大館市消防団	分団長	齋藤 新 昭	〃	秋田市消防団	分団長	横山 久 雄
〃	秋田市消防団	分団長	齋藤 義 人	〃	大館市消防団	分団長	植松 孝 実
〃	大仙市消防団	分団長	佐々木 孝 市	〃	横手市増田消防団	副分団長	石川 実 大
〃	横手市大森消防団	分団長	佐々木 重 一	〃	大仙市消防団	副分団長	佐々木 康 市
〃	湯沢市消防団	分団長	佐々木 長 一	〃	横手市十文字消防団	副分団長	菅原 善 文
〃	北秋田市消防団	分団長	佐藤 昭 男	〃	男鹿市消防団	副分団長	方 敏 太郎
〃	鹿角市消防団	分団長	佐藤 国 男	〃	大仙市消防団	部長	渡辺 良 太郎
〃	仙北市消防団	分団長	佐藤 健 一	〃	小坂町消防団	班長	佐藤 良 雄
〃	潟上市消防団	分団長	佐藤 進 一	山形県	酒田市消防団	団長	熊谷 文 昭

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名
山形県	寒河江市消防団	団長	佐竹 良 一	山形県	飯豊町消防団	分団長	山口 利 行
〃	東根市消防団	副団長	植松 昭 一	〃	小国町消防団	分団長	渡部 和 夫
〃	鶴岡市消防団	副団長	遠藤 勇 一	〃	庄内町消防団	副分団長	秋葉 良 一
〃	長井市消防団	副団長	小杉 政 博	〃	鶴岡市消防団	副分団長	菅原 昭 雄
〃	鶴岡市消防団	副団長	齋藤 一 保 一	〃	山形市消防団	部長	古田 敏 男
〃	大江町消防団	副団長	鈴木 喜 一	〃	新庄市消防団	部長	松田 君 一
〃	遊佐町消防団	副団長	村松 昌 義	〃	鮭川村消防団	団員	伊藤 亨 一
〃	河北町消防団	分団長	秋 場 義 廣	〃	酒田市消防団	団員	村 上 英 一
〃	酒田市消防団	分団長	石川 和 雄	福島県	双葉町消防団	団長	石井 幸 一
〃	南陽市消防団	分団長	石 秀 樹	〃	磐梯町消防団	団長	金 井 孝 雄
〃	酒田市消防団	分団長	伊藤 啓 一 郎	〃	鏡石町消防団	団長	小林 勇 雄
〃	西川町消防団	分団長	大 泉 敬 夫	〃	矢祭町消防団	団長	鈴木 桂 一
〃	鶴岡市消防団	分団長	工藤 裕 博	〃	広野町消防団	副団長	秋 田 英 博
〃	尾花沢市消防団	分団長	後藤 一 彦	〃	西郷村消防団	副団長	井 久 利 一
〃	米沢市消防団	分団長	齋藤 光 博	〃	川内村消防団	副団長	猪 野 久 吉
〃	真室川町消防団	分団長	庄 司 一 夫	〃	郡山市消防団	副団長	上遠野 大 一
〃	村山市消防団	分団長	高橋 昭 一	〃	会津坂下町消防団	副団長	黒 澤 英 司
〃	庄内町消防団	分団長	長 南 忠 一	〃	桑折町消防団	副団長	佐藤 富 博
〃	酒田市消防団	分団長	野田 治 夫	〃	会津若松市消防団	副団長	阿 部 文 昭
〃	新庄市消防団	分団長	鶴 巻 美 夫	〃	伊達市消防団	分団長	梅 孝 春
〃	戸沢村消防団	分団長	西 田 剛 一	〃	磐梯町消防団	分団長	五十嵐 春 彦
〃	最上町消防団	分団長	二 戸 久 雄	〃	川内村消防団	分団長	猪 野 夫 一
〃	上山市消防団	分団長	八 田 博 之	〃	伊達市消防団	分団長	遠藤 孝 一
〃	山辺町消防団	分団長	三 浦 幹 夫	〃	郡山市消防団	分団長	遠藤 正 典
〃	大蔵村消防団	分団長	三 矢 夫 一	〃	いわき市消防団	分団長	遠藤 靖 典
〃	山形市消防団	分団長	山 口 清 志	〃	会津若松市消防団	分団長	神 田 博 大

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名	
福島県	橋本町消防団	分団長	小 金 重 隆	福島県	いわき市消防団	副分団長	馬 上 忠 一	
	三島町消防団	分団長	小 尾 純 一		いわき市消防団	副分団長	馬 甲 茂 隆	
	いわき市消防団	分団長	坂 本 静 哉		いわき市消防団	副分団長	小 塚 浩 均	
	いわき市消防団	分団長	佐 久 山 正 三		いわき市消防団	副分団長	小 塚 浩 均	
	南相馬市消防団	分団長	佐 藤 正 行		福島市消防団	副分団長	佐 藤 廣 行	
	只見町消防団	分団長	佐 藤 長 次		富岡町消防団	副分団長	佐 藤 三 修	
	伊達市消防団	分団長	佐 藤 弘 幸		福島市消防団	副分団長	隣 木 真 幸	
	いわき市消防団	分団長	柴 崎 一 成		相馬市消防団	副分団長	隣 門 馬 隆 行	
	広野町消防団	分団長	白 土 庄 一		会津若松市消防団	副分団長	若 佐 藤 利 一	
	飯館村消防団	分団長	高 野 進 一		桑折町消防団	部 長	若 佐 藤 利 一	
	田村市消防団	分団長	高 橋 光 一		西会津町消防団	団 員	新 田 啓 郎	
	大玉村消防団	分団長	高 橋 信 一		茨城県	桜川市消防団	団 長	菅 川 光 吉
	いわき市消防団	分団長	長 瀬 芳 昭			つくば市消防団	副 団 長	飯 塚 信 夫
	福島市消防団	分団長	中 原 彦 彦			筑西市消防団	副 団 長	飯 塚 信 夫
	喜多方市消防団	分団長	中 村 忠 二 郎			桜川市消防団	副 団 長	上 野 利 芳 男
	二本松市消防団	分団長	野 地 政 秋			土浦市消防団	副 団 長	宇 田 川 仁 郎
	福島市消防団	分団長	深 瀬 茂 一 郎			土浦市消防団	副 団 長	大 島 三 郎
	国見町消防団	分団長	穂 積 栄 治			筑西市消防団	副 団 長	大 池 一 色
	南会津町消防団	分団長	量 哲 美			小美玉市消防団	副 団 長	大 池 一 色
	いわき市消防団	分団長	菅 川 水 治			石岡市消防団	副 団 長	小 林 隆 彦
相馬市消防団	分団長	山 本 宏 志	つくば市消防団	副 団 長		小 銭 谷 勇 一		
いわき市消防団	分団長	渡 邊 利 光	常総市消防団	副 団 長		寺 田 富 次 郎		
桑折町消防団	分団長	渡 邊 幸 一	笠間市消防団	副 団 長		中 島 清 一		
福島市消防団	分団長	渡 邊 幸 一	日立市消防団	副 団 長		中 島 清 一		
いわき市消防団	副分団長	猪 狩 文 夫	大洗町消防団	副 団 長		谷 田 部 公 一		
飯館村消防団	副分団長	伊 東 勇 一	常陸太田市消防団	副 団 長		吉 吉 治		
栃木県	芳賀町消防団	団 長	小 林 達 一	埼玉県		秩父市消防団	副 団 長	浅 見 茂 男
	那須町消防団	団 長	高 久 雄 幸			比企広城市町村圏組合東松山消防団	副 団 長	新 井 芳 信
	大田原市消防団	団 長	松 本 茂 一			八潮市消防団	副 団 長	新 井 芳 信
	那須烏山市消防団	副 団 長	小 川 清 一			熊谷市消防団	副 団 長	大 久 保 誠 一
	日光市足尾消防団	副 団 長	神 山 昌 弘			桶川市消防団	副 団 長	萩 野 子 一
	那須塩原市塩原消防団	副 団 長	君 島 正 三		草加市消防団	副 団 長	佐 久 間 義 範	
	真岡市消防団	副 団 長	福 村 新 一 郎		越谷市消防団	副 団 長	豊 田 光 一	
	宇都宮市消防団	副 団 長	量 野 富 男		行田市消防団	分 団 長	内 田 要 一	
	那須塩原市西那須野消防団	副 団 長	松 本 忠 太		越谷市消防団	分 団 長	金 子 繁 雄	
	日光市日光消防団	副 団 長	水 沼 乙 夫		川口市消防団	分 団 長	龜 岡 良 次	
	群馬県	藤岡市消防団	団 長		鈴 木 和 美	行田市消防団	分 団 長	小 林 隆 彦
	高崎市消防団	団 長	田 中 宏 一		さいたま市消防団	分 団 長	佐 藤 隆 彦	
	下仁田町消防団	団 長	武 藤 正 一		川口市消防団	分 団 長	菅 岩 良 一	
	富岡市消防団	団 長	山 田 雅 幸		さいたま市消防団	分 団 長	関 根 茂 一	
	沼田市消防団	副 団 長	高 橋 宏 一		熊谷市消防団	分 団 長	高 橋 肇 一	
	草津町消防団	副 団 長	直 井 新 吾		春日部市庄和消防団	分 団 長	高 橋 村 清 一	
嬬恋消防団	副 団 長	橋 詰 元 一	宮代町消防団	分 団 長	並 木 一 郎			
みなかみ町消防団	副 団 長	林 仁 一	さいたま市消防団	分 団 長	草 川 幸 喜			
長野原町消防団	副 団 長	樋 田 耕 弥	行田市消防団	分 団 長	出 半 昌 道			
太田市消防団	副 団 長	樋 本 知 昭	行田市消防団	分 団 長	出 半 昌 道			
大泉町消防団	分 団 長	久 保 田 修 一	幸手市消防団	分 団 長	水 峰 登 一			
みどり市消防団	分 団 長	東 菅 隆 吉	さいたま市消防団	分 団 長	水 峰 登 一			
桐生市消防団	分 団 長	山 崎 晃 一	川口市消防団	分 団 長	矢 作 謙 吉			
埼玉県	比企広城市町村圏組合小川消防団	団 長	石 川 雅 昭	久喜市栗橋消防団	分 団 長	横 田 利 一		
	比企広城市町村圏組合滑川消防団	団 長	井 上 上 隆	さいたま市消防団	副 分 団 長	横 田 利 一		
	横瀬町消防団	団 長	若 林 俊 明	さいたま市消防団	副 分 団 長	若 林 俊 明		

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名	
埼玉県	さいたま市消防団	副分団長	新井 敏夫	千葉県	南房総市消防団	副団長	杉本 孝	
	〃 熊谷市消防団	副分団長	飯田 哲司		〃 酒々井町消防団	副団長	関根 勇夫	
	〃 蕨市消防団	副分団長	沖田 三二		〃 市原市消防団	副団長	田中 敏徳	
	〃 さいたま市消防団	副分団長	小宮 彰		〃 いすみ市消防団	副団長	工藤 清貴	
	〃 熊谷市消防団	副分団長	長嶋 隆幸		〃 芝山町消防団	副団長	萩原 勇	
	〃 幸手市消防団	副分団長	栗本 富藏		〃 勝浦市消防団	副団長	藤江 勉	
	〃 さいたま市消防団	副分団長	山内 元		〃 九十九里町消防団	分団長	浅野 厚	
	〃 春日部市春日部消防団	副分団長	矢島 実		〃 成田市消防団	分団長	伊藤 正美	
	〃 羽生市消防団	部長	岡村 良男		〃 印西市消防団	分団長	茂崎 行夫	
	〃 越谷市消防団	部長	瀬尾 守一		〃 栄町消防団	分団長	岡田 一夫	
	〃 越谷市消防団	部長	岡根 勝男		〃 白井市消防団	分団長	笠川 淳一	
	〃 川口市消防団	部長	深尾 計		〃 野田市消防団	分団長	菅野 英源	
	〃 越谷市消防団	部長	森富 聡		〃 富里市消防団	分団長	富田 敏	
	千葉県	柏市消防団	団長		小山 博史	〃 流山市消防団	分団長	正樹 樹
		〃 南房総市消防団	副団長		相川 徹	〃 四街道市消防団	分団長	濱田 昌孝
		〃 鎌ヶ谷市消防団	副団長		飯田 治	〃 九十九里町消防団	分団長	林 彦彦
〃 横芝光町消防団		副団長	伊藤 雅宣	〃 四街道市消防団	団員	井岡 喜夫		
〃 市川市消防団		副団長	榎本 敬良	〃 銚子市消防団	団員	米田 光一		
〃 千葉市消防団		副団長	大智 弘	〃 佐倉市消防団	団員	瀧口 正巳		
〃 長生郡市広域市町村圏組合消防団		副団長	小高 一夫	〃 栄町消防団	団員	野口 隆		
〃 市原市消防団		副団長	桐野 心	〃 市川市消防団	団員	帆刈 剛一		
〃 南房総市消防団		副団長	小谷 新哉	東京都	羽村市消防団	団長	新井 敏行	
〃 松戸市消防団		副団長	齋藤 隆	〃 瑞穂町消防団	団長	本和 和巳		
〃 千葉市消防団		副団長	佐藤 重	〃 練馬消防団	副団長	藤井 尚高		
〃 富里市消防団		副団長	藤原 清春	〃 狹窪消防団	副団長	浅野 賢一		
〃 八千代市消防団		副団長	新谷 等	〃 本郷消防団	副団長	石井 宏		
東京都		深川消防団	副団長	岡本 繁	東京都	滝野川消防団	分団長	天宮 弘彦
		〃 深川消防団	副団長	小安 勤		〃 矢口消防団	分団長	藤宮 萬藏
		〃 向島消防団	副団長	坂井 尊一		〃 京橋消防団	分団長	伊井 良男
	〃 小岩消防団	副団長	佐藤 誠	〃 石神井消防団		分団長	井口 勇	
	〃 西東京市消防団	副団長	佐藤 満	〃 中野消防団		分団長	井坂 圭司	
	〃 成城消防団	副団長	島田 新司	〃 池袋消防団		分団長	隠岐 晃	
	〃 日野市消防団	副団長	杉山 幸廣	〃 豊島消防団		分団長	小田 光野	
	〃 昭島市消防団	副団長	住吉 幸宣	〃 葛西消防団		分団長	片倉 政義	
	〃 麩町消防団	副団長	中島 稔	〃 蒲田消防団		分団長	鍋木 幸	
	〃 杉並消防団	副団長	中村 四朗	〃 尾久消防団		分団長	菅野 登	
	〃 日本堤消防団	副団長	橋本 立也	〃 武蔵野市消防団		分団長	小玉 昌弘	
	〃 渋谷消防団	副団長	福住 照男	〃 麻布消防団		分団長	近藤 功	
	〃 荒川消防団	副団長	茂木 克夫	〃 大島町消防団		分団長	佐藤 敏	
	〃 小笠原村消防団	副団長	森本 智晶	〃 千住消防団		分団長	関内 昇	
	〃 千住消防団	副団長	八木 康雄	〃 目黒消防団		分団長	岡田 光一	
	〃 志村消防団	副団長	山崎 市佳	〃 上野消防団		分団長	高田 昌佳	
	〃 大森消防団	副団長	鍾水 武雄	〃 玉川消防団		分団長	高橋 秀典	
	〃 足立消防団	副団長	横濱 正雄	〃 板橋消防団		分団長	田口 一雄	
	〃 光が丘消防団	副団長	吉田 照彦	〃 江戸川消防団		分団長	田口 明義	
	〃 八王子市消防団	副団長	若林 道彦	〃 大井消防団		分団長	田中 博保	
〃 神田消防団	副団長	渡邊 圭一	〃 高輪消防団	分団長	田中 春樹			
〃 王子消防団	副団長	渡邊 雄一	〃 金町消防団	分団長	辻谷 隆一			
〃 小石川消防団	副団長	渡辺 紀雄	〃 浅草消防団	分団長	中根 利道			
〃 野方消防団	分団長	相田 智得	〃 新宿消防団	分団長	成田 勝洋			
〃 三宅村消防団	分団長	浅沼 安	〃 本田消防団	分団長	西野 谷			
〃 芝消防団	分団長	浅見 安雄	〃 荏原消防団	分団長	野村 貞一			

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名
東京都	赤坂消防団	分団長	林 良 秀	神奈川県	横浜市伊勢佐木消防団	分団長	飯 塚 章 久
〃	西新井消防団	分団長	福 原 徳 財	〃	横浜市神奈川消防団	分団長	飯 塚 田 葉 久
〃	本所消防団	分団長	藤 田 凱 徳	〃	川崎市宮前消防団	分団長	井 上 井 均
〃	世田谷消防団	分団長	藤 江 鉄 弘	〃	横浜市泉消防団	分団長	井 上 梅 雄
〃	城東消防団	分団長	藤 橋 定 彦	〃	横浜市鶴見消防団	分団長	石 石 五 雄
〃	品川消防団	分団長	山口 裕 二	〃	横須賀市消防団	分団長	石 石 志 俊
〃	赤羽消防団	分団長	吉 井 清 一	〃	山北町消防団	分団長	井 上 井 之 守
〃	日本橋消防団	分団長	吉 澤 初 司	〃	松田町消防団	分団長	岡 田 上 志
〃	四谷消防団	分団長	藤 廣 一 司	〃	川崎市臨港消防団	分団長	岡 田 子 富
〃	臨港消防団	副分団長	小 川 建 司	〃	横浜市戸塚消防団	分団長	岡 田 金 富
〃	牛込消防団	副分団長	高 橋 善 夫	〃	横浜市南消防団	分団長	金 子 子 裕
神奈川県	横浜市磯子消防団	団長	横 田 秀 昭	〃	川崎市幸消防団	分団長	蒲 田 賢 賢
〃	横浜市港北消防団	副団長	飯 田 孝 彦	〃	横浜市保土ヶ谷消防団	分団長	久 保 村 敏 男
〃	藤沢市消防団	副団長	井 上 和 弘	〃	横浜市緑消防団	分団長	久 保 久 依 田
〃	大和市消防団	副団長	井 上 貴 雄	〃	秦野市消防団	分団長	熊 澤 庄 市
〃	厚木市消防団	副団長	井 上 衛 夫	〃	秦野市消防団	分団長	小 泉 加 寿 彦
〃	相模原市消防団	副団長	小野 澤 英 夫	〃	川崎市麻生消防団	分団長	越 越 好 夫
〃	伊勢原市消防団	副団長	片 野 泉 雄	〃	茅ヶ崎市消防団	分団長	高 島 雄 雄
〃	横浜市栄消防団	副団長	加 藤 正 基	〃	横浜市西消防団	分団長	小 後 一 彦
〃	小田原市消防団	副団長	加 沼 光 義	〃	横浜市山手消防団	分団長	小 林 俊 夫
〃	横浜市都筑消防団	副団長	佐 野 芳 晴	〃	川崎市川崎消防団	分団長	小 松 原 徹
〃	横浜市港南消防団	副団長	高 橋 徳 明	〃	横須賀市消防団	分団長	佐 久 向 明
〃	箱根町消防団	副団長	中 村 克 明	〃	大和市消防団	分団長	佐 々 木 孝 一
〃	清川村消防団	副団長	馬 場 一 野	〃	平塚市消防団	分団長	鈴 野 志 一
〃	鎌倉市消防団	副団長	平 井 保 男	〃	藤沢市消防団	分団長	岡 野 志 一
〃	藤沢市消防団	分団長	浅 田 龍 光	〃	真鶴町消防団	分団長	高 橋 高 光
神奈川県	逗子市消防団	分団長	眞 下 政 次	新潟県	小千谷市消防団	副団長	井 上 正 志
〃	川崎市中原消防団	分団長	三 上 能 樹	〃	新潟市消防団	副団長	中 條 義 秋
〃	川崎市多摩消防団	分団長	三 平 等 三	〃	上越市消防団	副団長	波 平 敏 幸
〃	川崎市高津消防団	分団長	武 新 和 七	〃	魚沼市消防団	副団長	星 和 雄 行
〃	横浜市青葉消防団	分団長	森 太 太 七	〃	長岡市消防団	副団長	丸 山 雅 行
〃	横浜市瀬谷消防団	分団長	守 口 徳 一	〃	五泉市消防団	副団長	武 藤 八 弘
〃	山北町消防団	分団長	山口 正 弘	〃	新潟市消防団	副団長	八 木 田 武 一
〃	横浜市加賀町消防団	分団長	山口 正 弘	〃	三条市消防団	副団長	米 田 武 一
〃	横浜市旭消防団	分団長	渡 邊 昭 良	〃	新潟市消防団	副団長	伊 藤 渡 良
〃	横浜市金沢消防団	分団長	渡 邊 昭 良	〃	柏崎市消防団	分団長	五十 嵐 善 昭
〃	藤沢市消防団	副分団長	岡 根 隆 一	〃	糸魚川市消防団	分団長	伊 藤 善 昭
〃	横須賀市消防団	班長	神 尾 修 司	〃	南魚沼市消防団	分団長	岩 井 初 男
〃	藤沢市消防団	団員	廣 田 良 忠	〃	田上町消防団	分団長	川 崎 和 幸
〃	藤沢市消防団	団員	山 口 幸 雄	〃	阿賀野市消防団	分団長	佐 藤 賢 太郎
新潟県	柏崎市消防団	副団長	池 田 正 人	〃	柏崎市消防団	分団長	柴 野 利 喜 夫
〃	新潟市消防団	副団長	石 井 文 文	〃	佐渡市消防団	分団長	白 井 久 彦
〃	佐渡市消防団	副団長	石 井 和 文	〃	柏崎市消防団	分団長	須 田 千 佳 雄
〃	新発田市消防団	副団長	伊 藤 誠 一	〃	佐渡市消防団	分団長	高 野 正 敏
〃	村上市消防団	副団長	尾 形 正 行	〃	佐渡市消防団	分団長	塚 本 良 明
〃	新潟市消防団	副団長	沖 野 栄 一	〃	十日町市消防団	分団長	遠 田 登 一
〃	上越市消防団	副団長	木 尾 健 一	〃	糸魚川市消防団	分団長	言 田 富 富
〃	新潟市消防団	副団長	桑 原 久 満	〃	糸魚川市消防団	分団長	言 田 富 富
〃	新発田市消防団	副団長	小 池 也 也	〃	佐渡市消防団	分団長	中 川 晋 男
〃	長岡市消防団	副団長	小 林 福 一	〃	十日町市消防団	分団長	南 雲 弘 弘
〃	阿賀町消防団	副団長	斎 藤 八 州	〃	佐渡市消防団	分団長	濱 野 浩 一
〃	新潟市消防団	副団長	高 橋 藤 一	〃	湯沢町消防団	分団長	藤 田 浩 一

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	
新潟県	十日町市消防団	分団長	樋口 勝	
	南魚沼市消防団	分団長	菅 木 孝之	
	十日町市消防団	分団長	福崎 正敏	
	津南町消防団	分団長	丸山 茂	
	長岡市消防団	分団長	筑 貴	
	柏崎市消防団	分団長	村山 隆一	
	加茂市消防団	分団長	渡邊 友夫	
	十日町市消防団	副分団長	徳 水 喬	
	富山県	富山市消防団	副団長	桐 泰 山 治
	南砺市消防団	副団長	嶋 健 治	
富山市消防団	副団長	新村 意作		
入善町消防団	副団長	杉原 敏夫		
魚津市消防団	副団長	坪崎 芳松		
黒部市消防団	副団長	嶋 憲 行		
富山市消防団	副団長	増田 久義		
富山市消防団	副団長	吉田 昌人		
滑川市消防団	副団長	吉田 満夫		
高岡市消防団	分団長	荒井 俊六		
富山市消防団	分団長	吉田 克廣		
射水市消防団	分団長	加太 秀雄		
富山市消防団	分団長	北川 隆清		
高岡市消防団	分団長	窪 由三男		
富山市消防団	分団長	納 恭 廣		
富山市消防団	分団長	藤 木 健二		
射水市消防団	分団長	関 敏 史		
射水市消防団	分団長	野 田 進		

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	
富山県	黒部市消防団	分団長	濱 田 利	
	魚津市消防団	分団長	坂 邦 夫	
	射水市消防団	分団長	向 勝 義	
	高岡市消防団	分団長	吉川 和夫	
	小矢部市消防団	分団長	山 川 夫	
	石川県	志賀町消防団	団長	馬 田 好 明
	宝達志水町消防団	副団長	桂 吉 秋	
	七尾鹿島広域圏事務組合第二消防団	副団長	亀 井 正 樹	
	野々市市消防団	副団長	座 山 昌 二	
	津幡町消防団	副団長	寺 山 義 昭	
七尾鹿島広域圏事務組合第一消防団	副団長	林 前 雄		
珠洲市消防団	分団長	秋 田 松 男		
金沢市第一消防団	分団長	池 田 松 雄		
輪島市消防団	分団長	橋 本 悦 洗		
羽咋市消防団	分団長	借 道 聖 次		
加賀市消防団	分団長	坂 口 敏 行		
小松市消防団	分団長	島 村 谷 克 實		
金沢市第二消防団	分団長	藤 井 和 義		
宝達志水町消防団	分団長	藤 井 和 義		
能登町消防団	団員	久 山 省 治		
福井県	敦賀美方消防組合美浜消防団	団長	秋 山 富 男	
嶺北消防組合坂井消防団	団長	松 本 生 守		
福井市消防団	団長	森 田 賢 造		
大野市消防団	副団長	杉 野 幸 雄		
永平寺町消防団	副団長	服 部 幸 一		
勝山市消防団	分団長	乾 一 朗		

都道府県名	所 属	階 級	氏 名
福井県	鯖江・丹生消防組合鯖江消防団	分団長	山 崎 敏 彦
山梨県	道志村消防団	団長	出 羽 達 彦
	甲府市消防団	副団長	窪 寺 文 明
	上野原市消防団	副団長	白 鳥 純 雄
	大月市消防団	副団長	中 尾 助 三
	甲府市消防団	分団長	横 山 隆 實
	甲府市消防団	分団長	横 下 英 二
	北杜市消防団	分団長	高 橋 繁 治
	小菅村消防団	団員	木 下 大 吉
	小菅村消防団	団員	福 島 静 雄
	小菅村消防団	団員	藤 木 茂 和
長野県	小谷村消防団	団長	伊 藤 浩 幸
	王滝村消防団	団長	田 島 勝 之
	富士見町消防団	副団長	久 保 井 申 一
	佐久市消防団	副団長	小 平 厚 志
	松本市消防団	副団長	小 見 玉 志 吾
	栄村消防団	副団長	齋 藤 眞 次
	小諸市消防団	副団長	塚 川 浩 次
	麻績村消防団	副団長	清水 深 次
	木曾町消防団	副団長	白 澤 主 司
	小川村消防団	副団長	須 賀 真 孝
長野市消防団	副団長	竹 智 久	
長野市消防団	副団長	村 庄 市	
長野市消防団	副団長	中 木 夫	
筑北村消防団	副団長	松 木 好 徳	

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	
長野県	上田市消防団	副団長	母 好 義 豊	
	松本市消防団	分団長	根 石 市 秀	
	長野市消防団	分団長	宮 澤 林 徳 彰	
	長野市消防団	部長	小 牛 三 雄	
	長野市消防団	団員	小 牛 三 雄	
	岐阜県	恵那市消防団	団長	浅 井 頼 宣
	岐阜市南消防団	副団長	伊 藤 文 雄	
	岐阜市北消防団	副団長	伊 藤 文 雄	
	中津川市消防団	副団長	井 上 克 成	
	飛騨市消防団	副団長	牛 丸 正 巳	
中津川市消防団	副団長	加 加 孝 隆		
神戸町消防団	副団長	加 納 隆 隆		
笠松町消防団	副団長	菊 谷 智 安		
大垣市大垣消防団	副団長	菊 山 造 一		
大垣市大垣消防団	副団長	佐 藤 功 一		
中津川市消防団	副団長	佐 藤 本 一		
関ヶ原町消防団	副団長	杉 山 治 之		
飛騨市消防団	副団長	高 桑 正 志		
関市消防団	副団長	土 屋 正 志		
大垣市墨俣町消防団	副団長	長 崎 正 利		
高山市消防団	副団長	水 瀬 吉 吉		
中津川市消防団	副団長	平 井 一 吉		
七宗町消防団	副団長	松 山 広 成		
中津川市消防団	副団長	宮 崎 浩 己		
中津川市消防団	副団長	宮 崎 益 基		
岐阜市中消防団	分団長	安 達 和 良		

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名	
岐阜県	高山市消防団	分団長	新井 信次	静岡県	三島市消防団	分団長	増島 隆一	
	岐阜市南消防団	分団長	岩田 由勇		焼津市消防団	分団長	山本 由夫	
	岐阜市南消防団	分団長	嘉久 藤勝		富士市消防団	分団長	山本 伊知郎	
	大垣市大垣消防団	分団長	野村 久美		静岡市消防団	分団長	山本 義夫	
	恵那市消防団	分団長	佐藤 信之		富士市消防団	分団長	渡邊 明夫	
	飛騨市消防団	分団長	嶋 照文		西伊豆町消防団	部長	長島 司	
	大垣市大垣消防団	分団長	植岡 佳太郎		富士市消防団	部長	深澤 栄次	
	恵那市消防団	分団長	鶴見 敬太郎		伊東市消防団	団員	石野 木見	
	高山市消防団	分団長	田中 進宏		三島市消防団	団員	石野 原優	
	恵那市消防団	分団長	成瀬 正宏		愛知県	名古屋市弥富消防団	団長	石橋 達也
	郡上市消防団	分団長	水口 尚高		名古屋市太子消防団	団長	桶屋 隆哉	
	静岡県	河津町消防団	団長		桶屋 伸晃	名古屋市伊藤消防団	団長	大矢 隆哉
		藤枝市消防団	副団長		池谷 光一	名古屋市昭和橋消防団	団長	小笠原 勝美
		清水町消防団	副団長		久保田 光夫	名古屋市笠寺消防団	団長	藤澤 昭夫
島田市消防団		副団長	権 隆夫	岡崎市男川消防団	団長	近藤 藤夫		
静岡市消防団		副団長	花村 直仁	名古屋市新明消防団	団長	鈴村 木藏		
熱海市消防団		副団長	山田 章弘	名古屋市中小井消防団	団長	辻 正弘		
富士宮市消防団		分団長	有賀 正治	岡崎市美合消防団	団長	戸松 篤史		
小山町消防団		分団長	荒井 竜吉	名古屋市牧の原消防団	団長	内長 英雄		
富士市消防団		分団長	植松 正樹	名古屋市城北消防団	団長	中長 高治		
沼津市消防団		分団長	梅原 健一	岡崎市連尺消防団	団長	中根 康弘		
静岡市消防団		分団長	小田切 眞	岡崎市矢作消防団	団長	三浦 弘毅		
裾野市消防団		分団長	勝又 靖清	名古屋市宮根消防団	団長	横野 地卓		
沼津市消防団		分団長	藤 長正	豊明市消防団	副団長	天野 子修		
静岡市消防団		分団長	大津 洋一郎	清須市消防団	副団長	猪俣 修武		
浜松市消防団	分団長	高田 眞顯	あま市消防団	副団長	宇佐見 武			
愛知県	津島市消防団	副団長	前田 明博	三重県	熊野市消防団	分団長	新野 次郎	
	豊田市消防団	副団長	松井 誠廣		四日市市消防団	分団長	杉野 成隆	
	清須市消防団	分団長	猪子 忠夫		四日市市消防団	分団長	本木 義夫	
	西尾市一色消防団	分団長	筒井 雄一		桑名市消防団	分団長	藤田 光雄	
	一宮市消防団	分団長	馬淵 登男		鈴鹿市消防団	分団長	前田 光孝	
	瀬戸市消防団	副分団長	小林 廣宣		伊勢市消防団	分団長	森川 八郎	
	名古屋市中区消防団	副分団長	小田 誠人		四日市市消防団	副分団長	川口 富雄	
	半田市消防団	部長	青木 守克		亀山市消防団	副分団長	岩間 栄生	
	一宮市消防団	班長	後藤 昌昌		紀宝町消防団	部長	西村 光次	
	一宮市消防団	班長	田中 昇		松阪市消防団	部長	西田 次男	
	一宮市消防団	団員	安藤 清和		東近江市消防団	団長	田中 明雄	
	江南市消防団	団員	岩井 正明		米原市消防団	団長	富田 藤雄	
	一宮市消防団	団員	鈴木 伸一		竜王町消防団	団長	山中 茂茂	
	江南市消防団	団員	中島 久		大津市消防団	副団長	今井 俊博	
一宮市消防団	団員	山内 学	長浜市消防団	副団長	北村 孝司			
三重県	多気町消防団	副団長	井上 和	長浜市消防団	副団長	小宮 達夫		
	桑名市消防団	副団長	内山 茂	栗東市消防団	副団長	清水 実		
	尾鷲市消防団	副団長	栢屋 浩樹	高島市消防団	副団長	土中 伊左雄		
	津市消防団	副団長	岸本 淳	草津市消防団	副団長	中村 幸範		
	大紀町消防団	副団長	谷口 也	大津市消防団	副団長	服部 雄		
	玉城町消防団	副団長	松本 栄三	大津市消防団	副団長	田中 八海夫		
	津市消防団	副団長	森政 彦	大津市消防団	副団長	松田 正石		
	名張市消防団	分団長	梅英 昭	高島市消防団	副団長	山崎 清和		
	津市消防団	分団長	奥山 孝司	京都府	久御山町消防団	団長	久西 清樹	
	紀宝町消防団	分団長	川上 哉	綾都市消防団	団長	西田 安		
	伊勢市消防団	分団長	佐波 浩人	南丹市消防団	副団長	池田 樹哉		

都道府県名 所属	階級	氏名	都道府県名 所属	階級	氏名
京都府	副団長	今西 普作	大阪府	分団長	井上 裕史
〃	副団長	西田 義昭	〃	分団長	緒木 正広
〃	副団長	大田 有次	〃	分団長	野本 進
〃	副団長	小川 武志	〃	分団長	龍尾 敏
〃	副団長	岡 幸一	〃	分団長	大池 靖夫
〃	副団長	北村 浩明	〃	分団長	西脇 均
〃	副団長	小野 昭雄	〃	分団長	北野 孝宏
〃	副団長	中本 寿一	〃	分団長	福嶋 勇
〃	副団長	中島 孝徳	〃	分団長	越前 泰孝
〃	副団長	長谷川 敏夫	〃	分団長	山田 茂
〃	副団長	和田 和夫	〃	副分団長	大野 利雄
〃	副団長	安井 博一	〃	副分団長	櫻原 正
〃	分団長	大月 信二	〃	副分団長	北村 博
〃	分団長	大西 也	〃	副分団長	北野 清春
〃	分団長	申 逸夫	〃	副分団長	中林 成信
〃	分団長	久保 勝尚	〃	副分団長	橋爪 清典
〃	分団長	中谷 正博	〃	副分団長	松尾 利彦
〃	分団長	宮川 重和	〃	副分団長	松本 四郎
〃	分団長	山本 喜密	〃	副分団長	高橋 栄治
大阪府	団長	東浦 博彦	〃	副分団長	山崎 信
〃	副団長	杉本 和彦	〃	部長	鎌谷 義典
〃	副団長	田伏 幸治	〃	班長	飯村 均
〃	副団長	西川 俊夫	〃	団員	乾 展治
〃	副団長	野村 誠	〃	団員	光 一
〃	副団長	森 行	〃	団員	岸上 仁
〃	副団長	山 久雄	〃	団員	城 戸昇

都道府県名 所属	階級	氏名	都道府県名 所属	階級	氏名
大阪府	団員	竹田 昭	兵庫県	副団長	安原 勝則
〃	団員	平井 良和	〃	副団長	山田 好則
〃	団員	平川 英一	〃	副団長	澤正 実
〃	団員	向川 敏明	〃	分団長	井原 和四郎
兵庫県	団長	柴田 久入	〃	分団長	山上 隆
〃	副団長	大石 和之	〃	分団長	上田 英和
〃	副団長	大崎 文雄	〃	分団長	大崎 卓也
〃	副団長	納 清文	〃	分団長	小原 徹
〃	副団長	織田 崇志	〃	分団長	栗山 茂
〃	副団長	久保 善一	〃	分団長	西治 治
〃	副団長	小嶋 康司	〃	分団長	小西 一男
〃	副団長	小松 志雄	〃	分団長	小川 昌治
〃	副団長	澤 光吉	〃	分団長	齋藤 謙二
〃	副団長	白銀 敏孝	〃	分団長	島村 建
〃	副団長	田端 幸生	〃	分団長	清水 和
〃	副団長	天王寺 谷隆	〃	分団長	新見 利夫
〃	副団長	内藤 泰之	〃	分団長	高野 久人
〃	副団長	中島 英幸	〃	分団長	高安 剛
〃	副団長	林 正明	〃	分団長	辻本 實
〃	副団長	樋口 敏	〃	分団長	橋本 光
〃	副団長	福島 昭	〃	分団長	原 明
〃	副団長	藤原 幸	〃	分団長	前田 明
〃	副団長	増田 俊	〃	分団長	前田 俊
〃	副団長	松井 勝也	〃	分団長	本井 也
〃	副団長	松上 銀三	〃	分団長	本山 二三
〃	副団長	森 幸好	〃	分団長	本正 正
〃	副団長	森 好	〃	分団長	渡 進

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名	
兵庫県	川西市消防団	副分団長	田 徳 勇	和歌山県	那智勝浦町消防団	副団長	畑 哲 也	
	三木市消防団	団員	池 訂 英		田辺市消防団	副団長	畑 哲 也	
	太子町消防団	団員	大 西 康		白浜町消防団	分団長	東 彰 勇	
	川西市消防団	団員	吉 井 明		日高川町消防団	分団長	北 木 山 正	
	奈良県	河合町消防団	団長		小 克 始	橋本市消防団	分団長	北 林 美
		大和高田市消防団	団長		中 山 廣	御坊市消防団	分団長	中 井 久
		斑鳩町消防団	団長		増 井 生	田辺市消防団	分団長	三 國 幸
		御杖村消防団	団長		盛 岡 成	白浜町消防団	分団長	富 田 志
		五條市消防団	副団長		上 村 美	日高川町消防団	分団長	外 伸 郎
		天川村消防団	副団長		更 昭 逸	新宮市消防団	分団長	高 敬 一
古野町消防団		副団長	高 秀 次	御坊市消防団	分団長	原 徹 一		
大淀町消防団		副団長	東 山 昭	御坊市消防団	分団長	堀 口 明 男		
大和郡山市消防団		副団長	戴 田 孝	和歌山市消防団	分団長	山 田 啓 雄		
十津川村消防団		分団長	原 光 留	御坊市消防団	副分団長	川 前 留 一		
和歌山県	御所市消防団	分団長	竹 健 一	有田市消防団	班長	小 栗 山 孝		
	十津川村消防団	分団長	千 栗 磨	紀美野町消防団	団員	菅 橋 明		
	大和郡山市消防団	分団長	樋 山 男	有田市消防団	団員	柳 昌 弘		
	平群町消防団	分団長	巳 波 元	琴浦町消防団	副団長	髙 本 善 照		
	和歌山県	副団長	有 崎 文 雄	境港市消防団	副団長	正 本 孝 広		
	かつらぎ町消防団	副団長	木 村 幸 義	湯梨浜町消防団	副団長	本 城 本 幸		
	古座川町消防団	副団長	新 屋 了 丁	北栄町消防団	副団長	下 本 城 寛 幸		
	新宮市消防団	副団長	須 崎 起 佳	三朝町消防団	副団長	谷 本 本 幸 司		
	田辺市消防団	副団長	下 路 和 久	三朝町消防団	副団長	福 津 一 郎		
	みなべ町消防団	副団長	竹 田 中 和	倉吉市消防団	分団長	渡 辺 初 伸		
紀の川市消防団	副団長	中 萩 行	岩美町消防団	分団長	石 谷 朗 二			
紀の川市消防団	副団長	中 萩 行	日野町消防団	分団長	石 谷 朗 二			
鳥取県	米子市消防団	分団長	遠 藤 秀 實	鳥取県	浜田市消防団	分団長	横 坂 卓 也	
	鳥取市消防団	分団長	大 橋 康 男		津和野町消防団	分団長	吉 松 美 美	
	米子市消防団	分団長	角 時 彦		安来市消防団	分団長	吉 渡 和 則	
	岩美町消防団	分団長	中 嶋 政 幸		岡山市	副団長	東 行 教	
	境港市消防団	分団長	松 本 健 一		久米南町消防団	副団長	田 中 正 文	
	鳥根県	浜田市消防団	副団長		大 谷 十三一	赤磐市消防団	副団長	桶 田 浩 清
		雲南市消防団	副団長		景 山 進	倉敷市消防団	副団長	大 中 元 晴
		出雲市消防団	副団長		亀 滝 和 利	赤磐市消防団	副団長	尾 上 文 博
		出雲市消防団	副団長		神 田 伯 一	真庭市消防団	副団長	庄 司 興 二
		江津市消防団	副団長		水 本 孝 徳	赤磐市消防団	副団長	中 田 清 貴
松江市消防団		副団長	立 原 稔	美作市消防団	副団長	春 名 之 之		
隠岐の島町消防団		副団長	戸 田 栄 一	吉備中央町消防団	分団長	石 井 昭 義		
浜田市消防団		副団長	中 村 富 昭	倉敷市消防団	分団長	石 原 正 明		
浜田市消防団		副団長	横 田 米 利	岡山市消防団	分団長	伊 丹 晴 紀		
益田市消防団		副団長	横 田 費 壽 勇	新庄村消防団	分団長	伊 丹 晴 治		
奥出雲町消防団	副団長	村 尾 紀 代 之	鏡野町消防団	分団長	老 田 美 治			
江津市消防団	分団長	金 達 生	和気町消防団	分団長	大 國 一 生			
津和野町消防団	分団長	倉 益 久 美	備前市消防団	分団長	大 天 吉 哉			
江津市消防団	分団長	滝 本 豊	浅口市消防団	分団長	大 山 山 善 哉			
益田市消防団	分団長	豊 田 章 夫	岡山市消防団	分団長	大 山 山 善 哉			
邑南町消防団	分団長	中 井 伸 人	岡山市消防団	分団長	小 野 文 雄			
益田市消防団	分団長	中 井 伸 人	岡山市消防団	分団長	小 野 文 雄			
益田市消防団	分団長	中 西 信 二	高梁市消防団	分団長	中 西 信 二			
邑南町消防団	分団長	野 田 邦 弘	久米南町消防団	分団長	野 田 邦 弘			
吉賀町消防団	分団長	野 藤 久 幸	笠岡市消防団	分団長	野 藤 久 幸			
浜田市消防団	分団長	道 下 文 男	津山市消防団	分団長	道 下 文 男			

都道府県名 所属	階級	氏名	都道府県名 所属	階級	氏名
岡山県 岡山市消防団	分団長	草野 安夫	岡山県 鏡野町消防団	分団長	藤田 幸三
〃 高梁市消防団	分団長	小塚 健男	〃 岡山市消防団	分団長	藤原 清
〃 玉野市消防団	分団長	小近 藤万壽夫	〃 玉野市消防団	分団長	藤原 重喜
〃 新見市消防団	分団長	坂本 文也	〃 岡山市消防団	分団長	藤原 佳文
〃 新庄村消防団	分団長	佐藤 文也	〃 津山市消防団	分団長	藤原 水三
〃 総社市消防団	分団長	塩尻 英幸	〃 鏡野町消防団	分団長	三村 隆宣
〃 瀬戸内市消防団	分団長	高島 精彦	〃 吉備中央町消防団	分団長	山口 亮志
〃 備前市消防団	分団長	鈴木 克彦	〃 真庭市消防団	分団長	行安 太志
〃 津山市消防団	分団長	尾崎 富人	〃 新見市消防団	分団長	行和 洋
〃 岡山市消防団	分団長	瀬村 正人	〃 美作市消防団	分団長	和田 洋
〃 玉野市消防団	分団長	田中 雅夫	〃 高梁市消防団	副分団長	安藤 雄雄
〃 岡山市消防団	分団長	谷津 幸	〃 高梁市消防団	副分団長	安藤 博士
〃 鏡野町消防団	分団長	田村 正明	〃 津山市消防団	副分団長	内田 哲哉
〃 玉野市消防団	分団長	丹波 廣	〃 新見市消防団	副分団長	大岡 忠和
〃 高梁市消防団	分団長	綱島 正司	〃 新見市消防団	副分団長	奥津 忠正
〃 岡山市消防団	分団長	常盤 章夫	〃 津山市消防団	副分団長	小田 田幸保
〃 笠岡市消防団	分団長	徳山 崇広	〃 笠岡市消防団	副分団長	河田 弘之
〃 総社市消防団	分団長	鳥越 健二	〃 津山市消防団	副分団長	河村 弘之
〃 倉敷市消防団	分団長	西川 知三	〃 新見市消防団	副分団長	河村 隆仁
〃 新見市消防団	分団長	西村 泰則	〃 新見市消防団	副分団長	佐々木 友仁
〃 真庭市消防団	分団長	沼田 実	〃 津山市消防団	副分団長	寺坂 晋典
〃 笠岡市消防団	分団長	濱田 仁海	〃 新見市消防団	副分団長	中村 典
〃 岡山市消防団	分団長	原瀬 利和	〃 高梁市消防団	副分団長	岡本 靖恭
〃 総社市消防団	分団長	平正 正	〃 高梁市消防団	副分団長	政政 未恭
〃 井原市消防団	分団長	藤岡 弘達	〃 新見市消防団	副分団長	松本 恭治
〃 備前市消防団	分団長	藤田 敬一	〃 津山市消防団	副分団長	水島 誠次

都道府県名 所属	階級	氏名	都道府県名 所属	階級	氏名
岡山県 高梁市消防団	副分団長	三三 正	広島県 東広島市消防団	分団長	岡本 敏朗
〃 津山市消防団	副分団長	矢山 幸史	〃 広島市安佐南消防団	分団長	沖博 之快
広島県 庄原市消防団	副団長	大江 正清	〃 江田島市消防団	分団長	重谷 明
〃 呉市消防団	副団長	大上 雅晴	〃 呉市消防団	分団長	街道 明
〃 坂町消防団	副団長	尾形 生	〃 広島市西消防団	分団長	新山 正
〃 広島市安佐南消防団	副分団長	倉本 守	〃 三次市消防団	分団長	加藤 敏朗
〃 広島市西消防団	副分団長	眞野 治	〃 廿日市市消防団	分団長	加藤 直弘
〃 東広島市消防団	副分団長	勝谷 秀明	〃 江田島市消防団	分団長	釜川 昭昭
〃 呉市消防団	副分団長	菅原 廣三	〃 竹原市消防団	分団長	北丸 剛久
〃 庄原市消防団	副分団長	瀬川 亮	〃 広島市佐伯消防団	分団長	倉本 義正
〃 呉市消防団	副分団長	林 敏夫	〃 安芸太田町消防団	分団長	河野 正文
〃 大崎上島町消防団	副分団長	楠山 司	〃 呉市消防団	分団長	里本 善孝
〃 広島市佐伯消防団	副分団長	藤本 克裕	〃 北広島町消防団	分団長	清水 一夫
〃 安芸高田市消防団	副分団長	松本 英治	〃 呉市消防団	分団長	香住 治
〃 東広島市消防団	副分団長	井根 京二	〃 広島市安佐北消防団	分団長	春声 志光
〃 庄原市消防団	副分団長	山根 京司	〃 廿日市市消防団	分団長	田丸 信好
〃 呉市消防団	分団長	青木 正克	〃 広島市中消防団	分団長	中村 博思
〃 安芸高田市消防団	分団長	赤川 正仁	〃 大竹市消防団	分団長	中村 博雅
〃 三原市消防団	分団長	安有 幸治	〃 広島市東消防団	分団長	中岡 意弘
〃 三次市消防団	分団長	有田 穂	〃 江田島市消防団	分団長	高田 正
〃 福山市消防団	分団長	福嶋 昌宏	〃 広島市安佐南消防団	分団長	平田 信夫
〃 福山市消防団	分団長	上川 健一	〃 広島市南消防団	分団長	松本 樹
〃 廿日市市消防団	分団長	植松 幹雄	〃 福山市消防団	分団長	溝口 正明
〃 北広島町消防団	分団長	小笠原 幸信	〃 東広島市消防団	分団長	森田 純二
〃 三原市消防団	分団長	岡田 正章	〃 三原市消防団	分団長	森田 和夫
〃 呉市消防団	分団長	岡田 和明	〃 廿日市市消防団	分団長	横山 幸

都道府県名 所 属	階 級	氏 名	都道府県名 所 属	階 級	氏 名
広島県 安芸高田市消防団	分団長	渡邊 正 明	山口県 阿武町消防団	副団長	木村 誠
〃 呉市消防団	副分団長	船越 正 一	〃 宇部市消防団楠消防団	副団長	榎本 誠
〃 尾道市消防団	副分団長	岡野 修 一	〃 阿武町消防団	副団長	末若 誠
〃 三原市消防団	副分団長	片岡 孝 志	〃 美祿市消防団	副団長	高橋 誠
〃 広島市安佐北消防団	副分団長	亀廣 政 史	〃 下松市消防団	副団長	武居 正 展
〃 安芸太田町消防団	副分団長	栗瀬 道 雄	〃 周南市消防団	副団長	中村 徹
〃 三次市消防団	副分団長	太田 雄 吾	〃 山口市消防団	副団長	藤本 康 一
〃 世羅町消防団	副分団長	溝上 秀 紀	〃 平生町消防団	副団長	藤本 信 一
〃 熊野町消防団	副分団長	高崎 正 博	〃 下関市消防団	副団長	山田 池 一
〃 三原市消防団	副分団長	森岡 正 隆	〃 山口市消防団	分団長	池田 弘 一
〃 江田島市消防団	副分団長	山田 政 隆	〃 長門市消防団	分団長	池田 弘 志
〃 江田島市消防団	副分団長	渡辺 政 隆	〃 萩市消防団	分団長	井原 弘 一
〃 広島市安佐北消防団	部長	林 正 利	〃 田布施町消防団	分団長	若原 孝 一
〃 府中町消防団	部長	中村 功 志	〃 岩国市消防団	分団長	若原 久 男
〃 安芸太田町消防団	部長	菅田 克 志	〃 光市消防団	分団長	國弘 久 男
〃 府中市消防団	団員	猪俣 政 美	〃 岩国市消防団	分団長	佐伯 利 明
〃 尾道市消防団	団員	恵谷 幸 郎	〃 周防大島町消防団	分団長	佐坂 伯 清
〃 神石高原町消防団	団員	川上 義 文	〃 山口市消防団	分団長	坂本 明 士
〃 三次市消防団	団員	福曲 義 男	〃 平生町消防団	分団長	清水 高 徳
〃 神石高原町消防団	団員	福原 美 登	〃 萩市消防団	分団長	水角 津 五 郎
〃 広島市南消防団	団員	藤原 正 行	〃 上関町消防団	分団長	角田 多 一
〃 三次市消防団	団員	矢野 正 裕	〃 萩市消防団	分団長	多田 中 文
山口県 周防大島町消防団	団長	竹原 裕 之	〃 防府市消防団	分団長	中田 雄 一
〃 長門市消防団	副団長	池田 直 人	〃 山口市消防団	分団長	中野 文 雄
〃 柳井市消防団	副団長	石本 直 人	〃 山口市消防団	分団長	中野 文 雄
〃 田布施町消防団	副団長	大村 徳 正	〃 萩市消防団	分団長	中村 正 彦
都道府県名 所 属	階 級	氏 名	都道府県名 所 属	階 級	氏 名
山口県 山陽小野田市消防団	分団長	西村 英 一	徳島県 海陽町消防団	副団長	辻 芳 昭
〃 防府市消防団	分団長	桑本 哲 夫	〃 美馬西部消防組合消防団	副団長	手塚 家 博
〃 岩国市消防団	分団長	比佐 俊 生	〃 三好市池田町消防団	副団長	堂野 繁 樹
〃 光市消防団	分団長	平田 義 夫	〃 美馬市消防団	副団長	新居 哲 次
〃 山陽小野田市消防団	分団長	藤本 修 二	〃 美馬市消防団	副団長	藤原 勇 一
〃 山口市消防団	分団長	古屋 研 一	〃 鳴門市消防団	副団長	藤原 千 秋
〃 萩市消防団	分団長	三村 修 身	〃 海陽町消防団	副団長	松崎 恵 吾
〃 長門市消防団	分団長	三村 隆 信	〃 徳島市消防団	副団長	松本 和 宏
〃 山口市消防団	分団長	三輪 秀 明	〃 那賀町消防団	副団長	味上 政 司
〃 山口市消防団	分団長	三輪 秀 人	〃 那賀町消防団	副団長	藤本 延 一
〃 山陽小野田市消防団	分団長	森本 美 明	〃 阿南市消防団	副団長	白土 下 人
〃 周防大島町消防団	分団長	山本 榮 人	〃 三好市井川町消防団	分団長	島尾 芳 良
〃 美祿市消防団	副分団長	川本 立 造	〃 阿南市消防団	分団長	清野 昭 一
〃 周防大島町消防団	副分団長	中谷 良 弘	〃 牟岐町消防団	分団長	本郷 本 潔
〃 美祿市消防団	部長	中野 宣 和	〃 阿南市消防団	分団長	新仁 吉 一
〃 上関町消防団	団員	中田 和 巳	〃 徳島市消防団	分団長	吉本 見 一
徳島県 板野町消防団	団長	生田 圭 一	〃 美馬市消防団	副分団長	髙田 高 博
〃 三好市西祖谷消防団	団長	藤堂 興 宏	〃 勝浦町消防団	団員	藤原 隆 義
〃 吉野川市消防団	団長	藤村 和 隆	〃 美馬西部消防組合消防団	団員	吉野 正 一
〃 阿波市消防団	副団長	藤野 芳 隆	〃 美波町消防団	団員	實平 野 清
〃 徳島市消防団	副団長	木村 拓 史	〃 香川県 東かがわ市消防団	副団長	吉有 馬 正 則
〃 三好市三野町消防団	副団長	小杉 功 一	〃 綾川町消防団	副団長	前田 友 一
〃 美馬市消防団	副団長	杉原 功 一	〃 三木町消防団	副団長	岡田 久 幸
〃 神山村消防団	副団長	杉本 智 一	〃 高松市消防団	副団長	鎌田 浩 幸
〃 東みよし町消防団	副団長	渡川 北 文	〃 宇多津町消防団	副団長	佐々木 文 雄
〃 那賀町消防団	副団長	武勝 美 美	〃 高松市消防団	副団長	佐々木 文 雄

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名
香川県	まんのう町消防団	副団長	神保 義憲	愛媛県	内子町消防団	副団長	谷岡 和彦
	高松市消防団	分団長	磯見 正憲		鬼北町消防団	副団長	出川 龍夫
	丸亀市消防団	分団長	江本 光祥		内子町消防団	副団長	水田 秀明
	観音寺市消防団	分団長	西本 安弘		大洲市消防団	副団長	福本 亮定
	三豊市消防団	分団長	天西 孝三		今治市消防団	副団長	宮本 喜代治
	丸亀市消防団	分団長	尾松 良直		松山市消防団	副団長	宮野 直次
	高松市消防団	分団長	春川 茂		松山市消防団	副団長	宮野 直憲
	坂出市消防団	分団長	柴口 和文		大洲市消防団	副団長	野矢 正祥
	観音寺市消防団	分団長	豊田 喜平		宇和島市消防団	副団長	山石 忠兼
	三豊市消防団	分団長	中野 勇		伊方町消防団	副団長	吉田 兼治
	高松市消防団	分団長	浪尾 夫		今治市消防団	分団長	浅海 曉
	普通寺市消防団	分団長	委良 廣		伊予市消防団	分団長	岩井 辰男
	坂出市消防団	分団長	西山 修		四国中央市消防団	分団長	大西 明典
	さぬき市消防団	分団長	三宅 正二		東温市消防団	分団長	大西 昭賢
	高松市消防団	分団長	森澤 健次		鬼北町消防団	分団長	沖上 光昭
	さぬき市消防団	分団長	山田 忠義		今治市消防団	分団長	尾鷹 政治
	直島町消防団	分団長	山本 敬二		新居浜市消防団	分団長	小野 輝雄
	まんのう町消防団	分団長	横中 正信		松山市消防団	分団長	菊池 幸二
	丸亀市消防団	副分団長	中野 弘吉		八幡浜市消防団	分団長	菊池 素彦
	愛媛県	松山市消防団	副団長		天野 武	上島町消防団	分団長
松山市消防団		副団長	天西 尚	新居浜市消防団	分団長	近藤 博和	
西予市消防団		副団長	垣下 徳義	今治市消防団	分団長	塩見 敏和	
愛南町消防団		副団長	小松 好行	上島町消防団	分団長	川口 博明	
愛南町消防団		副団長	小本 善行	上島町消防団	分団長	砂川 治一	
愛南町消防団		副団長	菅原 千代郎	新居浜市消防団	分団長	高橋 研一	
松野町消防団		副団長	内 忠弘	西条市消防団	分団長	高橋 芳和	
愛媛県		松山市消防団	分団長	豊田 志	高知県	高輪消防組合中土佐消防団	副団長
伊予市消防団	分団長	中岡 敏文	四万十市消防団	副団長	辻 一夫		
東温市消防団	分団長	中島 幸一	大豊町消防団	副団長	杉本 公彦		
松山市消防団	分団長	丹生 美彦	高輪消防組合四万十消防団	副団長	野村 生		
久万高原町消防団	分団長	吉野 邦文	香南市赤岡消防団	副団長	別府 常雄		
内子町消防団	副団長	宮内 俊文	いの町消防団	副団長	森川 孝学		
松山市消防団	分団長	森 信雄	越知町消防団	副団長	山中 博		
今治市消防団	分団長	渡邊 和幸	安芸市消防団	分団長	有澤 初彦		
西条市消防団	副分団長	伊藤 綱男	本山町消防団	分団長	川村 茂徳		
今治市消防団	副分団長	片山 義嗣	土佐清水市消防団	分団長	白石 一夫		
西条市消防団	副分団長	斎藤 孝三	室戸市消防団	分団長	佐藤 行宣		
新居浜市消防団	副分団長	菅我部 輝寛	芸西村消防団	分団長	行崎 孝夫		
上島町消防団	副分団長	浪切 隆夫	佐川町消防団	分団長	西田 裕一		
新居浜市消防団	副分団長	矢野 吉男	南国市消防団	分団長	山口 承正		
松前町消防団	副分団長	部 恒夫	仁淀川町消防団	分団長	瀬川 修一		
今治市消防団	部長	越智 福見	宿毛市消防団	分団長	宮本 喜久夫		
四国中央市消防団	部長	菅我部 健二	土佐町消防団	分団長	森本 広広		
伊方町消防団	班長	三好 信幸	高知市消防団	分団長	安松 夫		
四国中央市消防団	団員	安藤 幸夫	香美市消防団	分団長	吉田 元茂		
鬼北町消防団	団員	石本 徹	大川村消防団	分団長	吉和 昭一		
今治市消防団	団員	大内 正文	高輪消防組合津野消防団	団員	川内 武志		
四国中央市消防団	団員	藤木 好入	高輪消防組合梶原消防団	団員	久岡 直雄		
大洲市消防団	団員	富田 幸男	福岡県	築上町消防団	団長	片岡 直志	
砥部町消防団	団員	正 健	北九州市小倉南消防団	副団長	有野 保志		
今治市消防団	団員	正 八次	豊前市消防団	副団長	有野 新		
今治市消防団	団員	吉 芳幸	鞍手町消防団	副団長	池浦 志		

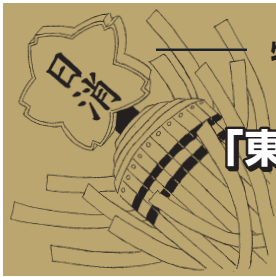
都道府県名 所 属	階 級	氏 名	都道府県名 所 属	階 級	氏 名
福岡県 遠賀町消防団	副団長	太田 誠彦	福岡県 北九州市八幡東消防団	分団長	武田 雄博
〃 北九州市若松消防団	副団長	岡部 茂樹	〃 苅田町消防団	分団長	田中 長博
〃 上毛町消防団	副団長	小川 清志	〃 田川市消防団	分団長	長賀 雄二
〃 福岡市早良消防団	副団長	角 富雄	〃 福岡市東消防団	分団長	野村 研二
〃 筑後市消防団	副団長	田中 富雄	〃 嘉麻市消防団	分団長	西野 晴美
〃 那珂川町消防団	副団長	築地 喜利	〃 北九州市洞海湾消防団	分団長	野村 晴美
〃 北九州市小倉北消防団	副団長	築地 喜利	〃 宮若市消防団	分団長	野村 晴美
〃 香春町消防団	副団長	築地 喜利	〃 大牟田市消防団	分団長	野村 晴美
〃 八女市黒木消防団	副団長	築地 喜利	〃 北九州市小倉南消防団	分団長	野村 晴美
〃 中間市消防団	副団長	築地 喜利	〃 吉富町消防団	分団長	野村 晴美
〃 直方市消防団	副団長	築地 喜利	〃 上毛町消防団	分団長	野村 晴美
〃 添田町消防団	分団長	築地 喜利	〃 宗像市消防団	分団長	野村 晴美
〃 糸田町消防団	分団長	築地 喜利	〃 福岡市博多消防団	分団長	野村 晴美
〃 福智町消防団	分団長	築地 喜利	〃 嘉麻市消防団	分団長	野村 晴美
〃 福岡市水上消防団	分団長	築地 喜利	〃 北九州市八幡西消防団	分団長	野村 晴美
〃 飯塚市消防団	分団長	築地 喜利	〃 嘉麻市消防団	分団長	野村 晴美
〃 みやこ町消防団	分団長	築地 喜利	〃 川崎町消防団	分団長	野村 晴美
〃 赤村消防団	分団長	築地 喜利	〃 芦屋町消防団	分団長	野村 晴美
〃 福岡市早良消防団	分団長	築地 喜利	〃 桂川町消防団	分団長	野村 晴美
〃 行橋市消防団	分団長	築地 喜利	〃 福岡市東消防団	分団長	野村 晴美
〃 直方市消防団	分団長	築地 喜利	〃 久留米市消防団	分団長	野村 晴美
〃 田川市消防団	分団長	築地 喜利	〃 飯塚市消防団	副分団長	野村 晴美
〃 福岡市博多消防団	分団長	築地 喜利	〃 飯塚市消防団	副分団長	野村 晴美
〃 柳川市消防団	分団長	築地 喜利	〃 大任町消防団	副分団長	野村 晴美
〃 福岡市博多消防団	分団長	築地 喜利	〃 宮若市消防団	副分団長	野村 晴美
〃 福岡市南消防団	分団長	築地 喜利	〃 北九州市門司消防団	副分団長	野村 晴美
福岡県 小竹町消防団	副分団長	竹内 清和	佐賀県 神埼市消防団	分団長	森山 尚治
〃 飯塚市消防団	副分団長	肘井 拓茂	〃 伊万里市消防団	分団長	山浦 秋彦
〃 築上町消防団	副分団長	廣津 隆隆	〃 太良町消防団	副分団長	杉崎 研二
〃 川崎町消防団	副分団長	水之上 政則	〃 嬉野市消防団	副分団長	菅崎 研二
佐賀県 唐津市呼子消防団	団長	木下 豊彦	〃 江北町消防団	団員	木村 清彦
〃 唐津市唐津消防団	副団長	浦田 友宏	〃 多久市消防団	団員	中森 秀則
〃 多久市消防団	副団長	江口 城広	〃 上峰町消防団	団員	草川 正吉
〃 唐津市七山消防団	副団長	川本 昌広	長崎県 波佐見町消防団	団長	荒木 昭治
〃 武雄市消防団	副団長	相浦 保馬	〃 雲仙市消防団	副団長	井元 昭治
〃 小城市消防団	分団長	一ノ瀬 義明	〃 平戸市消防団	副団長	若水 章
〃 白石町消防団	分団長	大坪 弘通	〃 志岐市消防団	副団長	橋本 初男
〃 吉野ヶ里町消防団	分団長	草場 勝見	〃 時津町消防団	副団長	水田 悦弘
〃 武雄市消防団	分団長	草場 久光	〃 新上五島町消防団	副団長	松本 義典
〃 唐津市厳木消防団	分団長	栗原 大次郎	〃 佐々町消防団	副団長	松本 喜典
〃 佐賀市消防団	分団長	小柳 泰紹	〃 南島原市消防団	副団長	松本 喜典
〃 佐賀市消防団	分団長	小柳 泰紹	〃 諫早市消防団	副団長	松本 喜典
〃 鳥栖市消防団	分団長	酒井 研一	〃 佐世保市消防団	分団長	若水 昭治
〃 嬉野市消防団	分団長	杉光 敬一郎	〃 新上五島町消防団	分団長	植村 徳一郎
〃 唐津市相知消防団	分団長	友田 裕司	〃 長崎市消防団	分団長	浦田 英二
〃 佐賀市消防団	分団長	中坂 克訓	〃 平戸市消防団	分団長	石屋 孝則
〃 佐賀市消防団	分団長	中坂 克訓	〃 小値賀町消防団	分団長	石屋 孝則
〃 唐津市唐津消防団	分団長	中山 忠幸	〃 島原市消防団	分団長	安宗 隆史
〃 伊万里市消防団	分団長	水良 俊史	〃 長崎市消防団	分団長	木下 幸照
〃 小城市消防団	分団長	南里 昭義	〃 長崎市消防団	分団長	崎本 洋幸
〃 佐賀市消防団	分団長	原田 勉	〃 松浦市消防団	分団長	白田 中
〃 神埼市消防団	分団長	森崎 俊一	〃 五島市消防団	分団長	白田 中

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名
長崎県	長崎市消防団	分団長	玉 越 哲 次	熊本県	南阿蘇村消防団	副団長	下 田 清 一
	東彼杵町消防団	分団長	築 越 章 一		あさぎり町消防団	副団長	藤 崎 愛 一
	佐世保市消防団	分団長	富 水 直 司		山鹿市消防団	副団長	高 木 健 一
	川棚町消防団	分団長	中 尾 政 幸		熊本市消防団	副団長	高 田 中 一
	大村市消防団	分団長	中 尾 拓 介		人吉市消防団	副団長	富 田 正 彦
	新上五島町消防団	分団長	中 山 利 三		天草市消防団	副団長	夏 澤 幸 一
	松浦市消防団	分団長	長 谷 川 浩 幸		熊本市消防団	副団長	西 浦 健 一
	西海市消防団	分団長	藤 本 政 明		山鹿市消防団	副団長	原 藤 和 久
	長崎市消防団	分団長	藤 本 勇 太郎		南阿蘇村消防団	副団長	津 浦 口 勇 一
	佐世保市消防団	分団長	藤 前 田 繁 雄		天草市消防団	副団長	妹 本 幸 喜
	長崎市消防団	分団長	藤 本 秀 明		天草市消防団	副団長	元 島 浩 一
	長崎市消防団	分団長	宮 本 孝 治		八代市消防団	副団長	森 崎 正 勝
	長崎市消防団	分団長	村 上 政 勝		天草市消防団	副団長	山 下 剛 一
	平戸市消防団	分団長	山 口 浩 己		水俣市消防団	副団長	山 下 剛 一
	佐世保市消防団	分団長	山 崎 芳 弘		御船町消防団	副団長	池 田 亮 一
	対馬市消防団	班 長	角 井 保 美		水俣市消防団	分団長	石 井 亮 一
	西海市消防団	班 長	松 尾 利 彦		天草市消防団	分団長	井 上 美 智 信
	五島市消防団	団 員	浦 口 庄 市		天草市消防団	分団長	上 杉 強 一
	対馬市消防団	団 員	佐 佐 木 隆 幸		宇城市消防団	分団長	佐 藤 直 一
	対馬市消防団	団 員	島 居 利 博		八代市消防団	分団長	木 山 康 孝
対馬市消防団	団 員	長 崎 章 一	和木町消防団	分団長	藤 部 尚 司		
五島市消防団	団 員	濱 川 光 義	熊本市消防団	分団長	下 田 隆 博		
新上五島町消防団	団 員	宮 田 力 一	八代市消防団	分団長	左 下 座 力 一		
熊本県	宇城市消防団	副団長	浦 山 弘 昭	天草市消防団	分団長	左 藤 夫 一	
	宇城市消防団	副団長	尾 崎 洋 治	天草市消防団	分団長	中 口 明 彦	
	南阿蘇村消防団	副団長	中 野 義 朗	八代市消防団	分団長	中 野 義 彦	

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名	
熊本県	津奈木町消防団	分団長	長 濱 良 子	大分県	豊後大野市消防団	副団長	山 口 修 一	
	熊本市消防団	分団長	西 村 壽 夫		豊後高田市消防団	分団長	池 田 昭 一	
	熊本市消防団	分団長	橋 本 博 康		豊後高田市消防団	分団長	桶 田 昇 一	
	熊本市消防団	分団長	原 田 秀 一		大分市消防団	分団長	岩 尾 幸 一	
	八代市消防団	分団長	日 根 清 一		中津市消防団	分団長	梅 田 文 一	
	熊本市消防団	分団長	平 川 早 苗		由布市消防団	分団長	甲 斐 敦 一	
	熊本市消防団	分団長	松 岡 政 晴		豊後高田市消防団	分団長	川 野 善 義	
	八代市消防団	分団長	宮 川 信 也		日田市消防団	分団長	後 藤 剛 勇	
	八代市消防団	分団長	山 口 利 光		日田市消防団	分団長	櫻 木 健 児	
	相良村消防団	分団長	山 崎 孝 行		日田市消防団	分団長	山 崎 道 文	
	熊本市消防団	分団長	山 本 伸 也		日出町消防団	分団長	田 邊 正 二	
	熊本市消防団	分団長	吉 村 廣 美		大分市消防団	分団長	梅 丸 昭 一	
	熊本市消防団	副分団長	田 中 良 兒		日田市消防団	分団長	中 島 哲 男	
	熊本市消防団	副分団長	水 塚 正 三		日田市消防団	分団長	古 澤 厚 美	
	熊本市消防団	副分団長	高 橋 剛 三		大分市消防団	分団長	藤 田 由 一	
	山鹿市消防団	副分団長	古 川 春 也		別府市消防団	副分団長	平 野 等 一	
	熊本市消防団	副分団長	宮 崎 重 信		別府市消防団	副分団長	三 浦 三 一	
	大分県	宇佐市消防団	副団長		小 野 正 一	別府市消防団	副分団長	宮 地 伸 一
	杵築市消防団	副団長	助 川 春 紀		臼杵市連合消防団臼杵消防団	部 長	藤 藤 郎 一	
	豊後大野市消防団	副団長	香 掛 義 隆		津久見市消防団	班 長	江 佐 義 彦	
宇佐市消防団	副団長	佐 藤 政 弘	佐伯市本匠消防団	班 長	白 川 義 則			
九重町消防団	副団長	藤 野 明 一	津久見市消防団	班 長	竹 尾 康 則			
中津市消防団	副団長	小 路 洋 夫	臼杵市連合消防団臼杵消防団	班 長	竹 尾 康 則			
宇佐市消防団	副団長	末 廣 久 一	中津市消防団	班 長	宮 野 彰 治			
中津市消防団	副団長	水 島 忠 彦	中津市消防団	団 員	宮 野 彰 治			
佐伯市米水津消防団	副団長	御 手 洗 達 郎	佐伯市宇目消防団	団 員	今 山 博 司			

都道府県名	所 属	階 級	氏 名	都道府県名	所 属	階 級	氏 名
大分県	津久見市消防団	団員	後 藤 良 洋	宮崎県	都城市消防団	団員	關 良 一
◇	佐伯市鶴見消防団	団員	坂 本 謙 士	◇	西都市消防団	団員	武 友 三
◇	佐伯市直川消防団	団員	曾 宮 郁 夫	◇	都城市消防団	団員	東 勝 巳
◇	玖珠町消防団	団員	井 信 義	◇	三股町消防団	団員	日 高 幸
宮崎県	高千穂町消防団	団長	藤 井 高 明	鹿児島県	湧水町消防団	団長	花 堂 伸 一
◇	高千穂町消防団	副団長	安 在 耕 二	◇	瀬戸内町消防団	団長	福 井 朗
◇	都農町消防団	副団長	黒 木 正 之	◇	霧島市消防団	副団長	折 田 幹 幹
◇	延岡市消防団	副団長	後 藤 義 昌	◇	屋久島町消防団	副団長	白 濱 繁
◇	国富町消防団	副団長	西 貞 光	◇	薩摩川内市消防団	副団長	杉 山 樹
◇	小林市消防団	副団長	西 八重 輝 美	◇	霧島市消防団	副団長	演 田 康 男
◇	宮崎市消防団	副団長	山 口 和 明	◇	霧島市消防団	副団長	福 森 芳 美
◇	門川町消防団	副団長	山 倉 隆 登	◇	日置市消防団	副団長	古 川 和 史
◇	宮崎市消防団	分団長	岡 本 邦 彦	◇	さつま町消防団	副団長	宮 脇 純 治
◇	五ヶ瀬町消防団	分団長	甲 斐 志 義	◇	肝付町消防団	分団長	有 村 和 年
◇	日南市消防団	分団長	上 武 義 情	◇	南さつま市消防団	分団長	上 野 情
◇	串間市消防団	分団長	川 崎 保 人	◇	霧島市消防団	分団長	奥 田 勇 行
◇	日之影町消防団	分団長	工 藤 久 剛	◇	薩摩川内市消防団	分団長	折 田 政 士
◇	日南市消防団	分団長	倉 岡 豊 美 誠	◇	奄美市消防団	分団長	加 路 文 隆
◇	日向市消防団	分団長	黒 木 誠 一	◇	鹿児島市消防団	分団長	川 路 幸 一
◇	日之影町消防団	分団長	佐 藤 靖 則	◇	鹿児島市消防団	分団長	栗 脇 幸 生
◇	延岡市消防団	分団長	白 石 利 次	◇	霧島市消防団	分団長	永 高 幸 美
◇	西都市消防団	分団長	杉 本 信 次	◇	大崎町消防団	分団長	高 瀬 幸 雄
◇	延岡市消防団	分団長	演 田 正 士	◇	鹿児島市消防団	分団長	武 田 秀 幸
◇	都城市消防団	副分団長	濱 元 純 夫	◇	鹿児島市消防団	分団長	中 井 義 幸
◇	串間市消防団	部長	鍋 倉 静 夫	◇	鹿児島市消防団	分団長	水 中 重 春
◇	西米良村消防団	団員	黒 木 敏 浩				

都道府県名	所 属	階 級	氏 名
鹿児島県	南さつま市消防団	分団長	新 澤 秀 巳
◇	鹿屋市消防団	分団長	平 田 久 夫
◇	和泊町消防団	分団長	福 山 昭 雄
◇	鹿屋市消防団	分団長	松 下 孝 志
◇	始良市消防団	分団長	山 口 忠 昭
◇	伊佐市消防団	分団長	脇 迫 六 雄
◇	垂水市消防団	副分団長	緒 屋 久 義
◇	日置市消防団	副分団長	住 吉 信 一
◇	鹿児島市消防団	副分団長	宮 子 丸 宗 一
◇	垂水市消防団	副分団長	宮 崎 清 政
◇	薩摩川内市消防団	副分団長	村 岸 敏 和
◇	鹿児島市消防団	部長	上 宇 都 純 明
◇	いちき串木野市消防団	班長	木 場 良 一
◇	鹿児島市消防団	班長	外 園 武 津 雄
◇	鹿児島市消防団	班長	水 之 浦 周 二



特別表彰「まとい」を受章して

「東日本大震災を乗り越えて」

気仙沼市消防団 団長 武山 文英



気仙沼市及び気仙沼市消防団の沿革

気仙沼市は、宮城県の北東端に突出した位置にあり、東は太平洋に面し、北は岩手県陸前高田市、西は岩手県一関市に接しています。

太平洋に面した沿岸域は、半島や複雑な入り江など、変化に富んだリアス式海岸を形成し、湾口に「太平洋の緑の真珠・大島」を抱いた気仙沼湾は、四季静穏な天然の良港として全国有数の漁港として名を馳せています。

平成18年3月31日に気仙沼市と唐桑町が一市一町による新設合併を果たし、新・気仙沼市となりました。平成21年9月1日には、南に接する本吉町を編入しました。東西約24km、南北約29km、333.37km²の市域を有しています。

一市二町の合併を経て、それぞれ自治体において火消し組として発足した歴史ある消防団は、平成22年に「気仙沼市消防団」として改めて生まれ変わりました。

3.11東日本大震災

これまで、火災をはじめとして、河川の増水、地震・津波への対処と、地域の安全を守るべく、日夜、消防団は活動してまいりましたが、平成23年3月11日に我々の想像を超え



平成25年消防車両交付式



平成25年消防出初式

た大災害「東日本大震災」が発災しました。マグニチュード9.0の巨大地震とその約30分後から本市を襲った大津波は、それぞれの集落を襲い、風光明媚な沿岸や歴史のある街並みを飲み込み、市民の大事な財産、そしてたくさんの生命を奪いました。約1万1000棟の住家が全半壊となり、105カ所の一時避難所には最多で2万人を超える市民などが避難生活を送りました。

津波が引いた直後に市街地で発生した火災は、火の着いた漁船が内湾に浮かび、あちこちのプロパンガスが爆発を起こすなど手の付けられない様子で、紅蓮の炎が街全体を覆う様子には、「これは夢ではないのか」と己の目を疑いました。

特に、最長13日間燃え続けた地区の火災には、地元消防署隊をはじめとし、駆けつけた東京消防庁緊急消防援助隊などと連携して、約1150メートル離れた水利からホースを延長して消火活動に当たりました。

また、津波が到達した地域では、



訓練出動するバイク隊

2階建ての介護老人保健施設の屋上や市民福祉センターにたくさんの避難者がおり、できる限り多くの車椅子や担架を手配して、折り重なるガレキの上を足場に気をつけて救出を繰り返しました。

そのほか、6台で構成するバイク隊を駆使して、停電等により携帯電話が通じず伝達手段が途絶した拠点間の情報を収集・伝達し燃料や食料を調達したほか、夜間は定期的に消防車の赤灯を灯火して、闇に乗じて行われる盗難などを警戒しました。

一方、我々消防団員においても、市民に対し避難誘導した後や、職場から消防団活動をしようと駆けつける途中に津波に巻き込まれたり、または震災直後の懸命な活動から病気を患うなどして、9名の仲間が犠牲となりました。

消防団の安全管理

これまでも地震・津波災害時の活動フローを策定し、「震度5以上の地震」「津波注意報発表」の際には、各地の消防団屯所に参集し、住民に対して避難の誘導を行うこととしており、「津波到達予想時刻の10分前には安全な高台に退避すること」とルール付けをしていましたが、さらにこの大震災を踏まえて平成24年10月に「自らが率先して避難すること」「3人以上で行動すること」「ライフジャケットを着用すること」などを前提とした「津波災害時の消防団活動・安全管理の暫定指針」を策定し団員に周知しました。平成25年度中には、危険地域や避難場所等を見直し、より具体的な団員の動きについて明記する「消防

団員安全管理マニュアル」を策定いたします。

また、新たに分団を構成する部・班に対してデジタル無線機を配備しましたので、的確な相互通信ができるように毎月1日に無線通信訓練を行うよう定例化しました。消防団本部から分団親局へ、分団親局から分団子局へと通話を確認するもので、初めはぎこちない様子ですが、シナリオを読み込む形で通信を重ねることで、実災害時には受話・発話のスムーズな活用を目指しています。

本市消防団は、「自らの地域は自らが守る」の精神のもと、未曾有の大災害に敢然と立ち向かってまいりました。復旧・復興期にあたる今日において、様々な形で守るべき財産が形成されてまいります。今後も身体、技術を練成し、本市が求める「津波死ゼロのまちづくり」にあわせ、二度と殉職者を出さぬよう救助資機材の活用、団員間のルール作りに努めてまいります。

特別表彰まといの重み

日本消防協会特別表彰まといは、全国消防団にとって、毎年10団体に交付されるもので、本市消防団にとってもあこがれの存在でありました。2月26日にニッショーホールで開催された受章式において手にした「まとい」は、近代消防団組織設立120周年の歴史のごとき重みがあり、一段と身の引き締まる思いを感じました。今後も気仙沼市消防団にとっての誇りであると伝承し続けます。

結びに、東日本大震災によりお亡くなりになったすべての消防団員に哀悼と感謝の念をもって天に祈り、特別表彰まといを受章しての言葉といたします。



無線運用訓練の様子



「防災・減災を担う消防団」



多度津町消防団 団長 村井 勉

1 多度津町の紹介

多度津町は、香川県の中部に位置し、南は讃岐平野、北は風光明媚な瀬戸内海国立公園に接しています。海岸線はほぼ一線凸字型であり、市街地の東南平野は開け、その広さは町の60%を占めています。東は丸亀市に接し、西は黒戸山頂を見通し、三野町・詫間町に接し、南は善通寺市に接しています。北の瀬戸内海に面している多度津港を隔てること7.5km沖には高見島、これよりさらに5kmの海上に佐柳島があり、岡山県笠岡市と境を接しています。

当町の人口は、約23,000人、面積は24.34km²（内島嶼部4.63km²）、気候温和で地味肥えで、古くから天然の良港に恵まれ、港を中心に発達し明治に入り四国最初の鉄道が



ポンプ操法訓練

開通したことで、鉄道と港の利点を生かし西讃交通の要衝として発展しました。昭和49年に190万㎡の臨海土地造成事業を行い、現在は、約50社の企業を誘致し近代工業都市へと変貌しています。また、一昨年には、町制施行120周年という記念すべき年を迎え、古い歴史と伝統のある町でふるさと多

度津に「誇りと愛着」を持ち「夢と希望」を抱き、みんなで生き生き暮らせる町が多度津町です。



出初式の分列行進

2 消防団の概要

多度津町消防団は、昭和22年12月23日消防組織法が公布され、官設消防から自治体消防へと生まれ変わり現在の消防団が誕生しました。時代の流れとともに消防団をとりま

く環境は大きく変化し、昭和57年12月消防団の近代化と機動化を推進し、時代の要請する消防団体制を確保すべく消防団統合整備計画を策定し、従来の部単位を分団に統合し、昭和61年9月26日に整備が完了され消防機能の強化が図られました。

平成25年4月1日現在、消防団は第1～4分団の陸地部と5分団（高見島）6分団（佐柳島）の143名で編成されています。消防団車両は、指令車2台、ポンプ車1台、小型動力ポンプ積載車2台、小型動力ポンプ・救助資機材搭載車1台、小型動力ポンプ20台を配備しています。

3 消防団の活動

多度津町は、温暖な気候に恵まれ災害の少ない町です。日頃から、火災予防を推進し、春・秋の火災予防運動期間中には、火災予防宣伝パレード・機械器具点検・放水訓練を実施し、更には年末には年末警戒の夜警巡視を実施しています。

また、ポンプ操法大会・総合訓練（火災防ぎょ訓練・普通救命講習等）を実施し、有事に備え積極的に訓練に取り組んでいます。また、洪水による被害を防止するための水防体制の強化・水防技術の習得・研さん・水防意識の普及・高揚を目的とした国土交通省等の主催



ポンプ操法大会

で開催される水防演習訓練にも積極的に参加し、町民の安心・安全を守る消防団として活動技術・資質の向上に努めています。

4 終わりに

東日本大震災をはじめ、各地で発生した風水害が大きな被害をもたらしており、地域における防災・減災の中心的な役割を担う消防団は、強固な連携を密にして、被害の軽減に努めるべき訓練を消防団一丸となって取り組み多度津町民を守ります。



出初式の一斉放水



「住民の安心・安全のために」



高森町消防団 団長 吉良 嘉人

1 高森町の紹介

高森町は、九州中央部、熊本県の最東端に位置し、世界一のカルデラで有名な阿蘇山のカルデラの中に存在します。南部は宮崎県、東部は大分県に隣接する農山村地域です。総面積は174.9km²あり、その町土の78%は森林が占めており、古くから人が自然との調和を図りながら暮らしてきました。

九州における阿蘇は、年間観光客数1800万人を誇る日本でも有数の観光地であり、その中に位置する高森町には、年間90万人の観光客が訪れています。観光の主なもの



根子岳

としては、阿蘇五岳のひとつである景勝地「根子岳」、高森田楽や地鶏焼き等に代表される独自の食文化や地酒等が挙げられます。

2 高森町消防団の概要

高森町消防団は、昭和の大合併により4町村が合併し現在に至っています。消防団の構成としては、町全体を掌握する「団長」、旧町村単位に「副団長」、その下に「本部員」(独自階級)をそれぞれ4名配置しています。分団は13分団で構成され、その他に機動部、女



消防出初式

性消防隊が配置されています。

運用資機材は、指令車1台、消防ポンプ車3台、小型動力ポンプ積載車17台、資機材搭載型小型ポンプ積載車1台の計22台が配備されており、団員268名が団長統率の下積極的に活動しています。

3 高森町消防団の活動

消防団の活動は、新春の節目となる出初式に始まり、火災を想定した基本の訓練はもとより、中継送水訓練や送水実施訓練、各種機器や施設の点検、年末年始の夜警等を行っています。

消防団の活動としての中心は、火災及び台風や集中豪雨等風水害への対応が主なものとなり、それらの警戒をはじめとして、避難経路の確認や避難誘導等、さらには行方不明者の搜索とその活動範囲は幅広く地域住民の安心安全の確保に努めています。

2年に1回行われる消防ポンプ操法大会においては、日頃の忙しい仕事の合間を縫って、消防技術力の向上を目指し、厳しい訓練を重ね本番に臨んでおります。県大会出場こそ叶いませんでしたが、ポンプ操法の厳しい訓練を通じて、消防人として活動する意義や消防団組織の重み等、家族や地域への関わりの重さを再認識していました。

4 おわりに

近年、全国各地で異常気象によるゲリラ豪雨や竜巻、さらには台風等が頻繁に起こっており、常に危険や不安と隣り合わせの状況が続いています。

本町においても、昨年、九州北部豪雨で甚大な被害を受け、自然の驚異を改めて知らされました。この経験により、住民の防



九州北部豪雨被災状況

災に対する意識はかなり向上してきました。消防団としても、これを契機に「地域防災力」向上への大きな足掛かりとして、地域に根ざした活動を展開していきたいと思えます。今後は、各種災害にも対応できるよう知識や技術を磨き、高森に住む人々が安全と安心を実感できるよう、ふるさと“高森”のために頑張っていきたいと思えます。



ポンプ操法大会



「わがまちの消防団」



太地町消防団 団長 山下 雅久

1 太地町の紹介

太地町は、紀伊半島の南東部に位置し、全体が熊野灘に面し、太平洋が一望でき、風光明媚な眺めで海岸線は豪壮優美なりアス式を形成しています。総面積は5.96km²で平成25年2月現在の人口は3,405人（住民基本台帳）と小規模な町です。

産業としては、漁業が中心であり、その中でもIWC（国際捕鯨委員会）の対象外である小型鯨類を対象とした捕鯨を今も続けています。

また、古式捕鯨発祥の地として約400年の捕鯨の歴史、伝統等の文化を有しています。この捕鯨の歴史を後世に残すため、昭和44年に『くじらの博物館』を建設し、更に古式捕鯨時代の史跡等の整備に努め、『くじらの町づくり』を進めています。



出初式分列行進



出初式整列

2 太地町消防団の紹介

太地町消防団は、明治33年、手押しポンプ1台と組員30名による組織的な消防組として活動を開始し、警防団へと改称改組された後、昭和22年8月より消防団として発足しました。その後、平成17年4月の組織改編を経て、平成25年2月現在、1本部、6分団、実員141名で編成されています。

当消防団の特徴の1つは職能編成の特殊分団を組織していることですが、その中の破壊分団について紹介させていただきます。破壊分団は、大工、左官、配管、塗装等、建築物の構造を知り尽くした職業の団員で構成される分団です。車両はチェーンソーや木づち等を装備した破壊道具積載車を配備し、消火に支障をきたすものの除去をはじめ、有効な注水確保のため壁に穴をあけたりする



消防団本部

等を主任務としており火災現場ではたいへん有効に機能します。

また、町役場の男性職員を消防団に組織化して消防団員として配置し、1つの分団を編成しています。昼間は常時、消防団員が待機していることとなりますので火災があれば真っ先に出動する主力部隊の役割を担っています。

3 太地町消防団の活動

消防団の活動としましては、毎年1月に挙げる出初式に始まり、町の伝統行事や祭典神輿、町内で行われる花火大会への警戒等、町内の様々なイベントへの協力を行い、年末の特別警戒と年間を通じて精力的に活動しています。

また、当消防団では毎月1回、分団長による定例幹部会を開催し、団組織の運営をはじめ、当月の訓練計画を協議するとともに意見交換を行い連携を図っています

そして毎月25日には、サイレン吹鳴により団員を呼集し、全町一斉の訓練を実施しており、その内容は、新人団員への訓練礼式、資器材取扱いの指導、建物火災や林野火災を想定した中継ホース延長訓練、消火

栓などの水利点検、火災想定等、有事の際に即時対応できるよう実施しています。

4 終わりに

先に述べましたとおり、当消防団では毎月1回消防団の訓練を行っています。これはもちろん、消防団員の技術向上が目的ですが、それだけではなくサイレンを吹鳴することで、住民の火災予防

の注意喚起を図ることも大きな目的としています。住民が消防団の訓練を見て、火の用心を意識してもらうことが大事であり、それがひいては火を出さないための重要な火災予防につながっていくと考えています。

しかしながら、当消防団においても例外でなく全国的な問題となっています団員の減少が続いており、切迫性の指摘される東南海、南海地震の発生が予測される中、限られた人員、機材を有効活用できるよう更に訓練を通じて組織の構築を図っていきたく思っています。

これからも住民の生命と財産を守るため、消防団活動に邁進し、安全で安心な町づくりを目指していきます。



放水訓練



シンフォニー（京都府）

「地域に親しまれる活動为目标に」

京丹後市消防団 団員

中村 恵美

私たちの住む京丹後市は、日本海に面した京都府最北端に位置し、平成16年4月1日、6つの町が1つになり誕生した人口約6万人の町です。

古くから「丹後ちりめん」発祥の地として絹織物の生産・加工がさかんで、今日では新たに機械金属工業・観光産業がまちの発展を担っています。また、近年食味ランキング最高評価「特A」を獲得している丹後産コシヒカリ、冬の味覚の間人ガニなどに代表されるように大地や海の幸にも恵まれ、日本一の「鳴き砂」で知られる琴引浜を含む海岸線は「世界ジオパークネットワーク」から「山陰海岸ジオパーク」として認定を受けています。

現在、京丹後市消防団は26分団79部、総勢1,689名で組織されています。その内、本部に属する私たち女性団員は10名で、予

防啓発活動を中心に消防団活動を行っています。メンバーは友達の紹介や職場での勧誘、市の団員募集記事を見かけて入団したりと様々で、年齢も20代から40代、団歴1年未満から10年以上と幅広く、職種もライフスタイルもそれぞれです。

こんな私たちではありますが、年間をとおして主に

- ① 定例会議、夜間防火パトロール（毎月）
- ② 規律訓練、消火器・消火栓取扱講習、救急救護訓練等各種訓練（年1回程度）
- ③ 火災予防運動に伴う保育所等防火教室、独居老人宅訪問
- ④ 防災訓練や各イベントでの火災予防啓発
- ⑤ 操法大会・出初式等への参加

【参考】

『AEDの取扱い、住宅用火災警報器の



普通救命講習受講



保育所防火教室



独居老人宅訪問

取付け（動画）』<http://www.city.kyotango.lg.jp/kurashi/bosai/shobodan/aed-keihoki/index.html>などに取り組んでいます。「毎月第2火曜日の夜は消防の日」として、勤務時間や休日が団員によって個々に違う状況でも事前に予定を組みやすいように会議を原則固定して、併せて、消防署の協力をいただきながら同日に夜間の防火広報を実施するなど、少しでも多くの団員が参加でき、負担が減るような工夫をしながら活動を行っているところです。

そんな中、予防啓発活動を中心に活動してきた私たちにとって、消防団活動に対する意識や考え方が変わるきっかけとなったのが「第20回全国女性消防操法大会」への出場です。

それまで、男性団員の操法訓練や大会をとおしてある程度操法というものをイメージすることはできましたが、まさか私たちがポンプの操作をマスターして、スピードと規律を競う全国大会に出場するなんて夢にも思っていませんでした。

最初は、みんな流れを覚えるのに精一杯で、1番員となった私もホース展張に苦労しました。はじめはあまり士気も上がらず、

訓練もやらされてる感がありましたが、訓練を重ねるごとに、できないことへの歯がゆさやタイムが伸びるうれしさを感じ、消防署のみなさんの熱心な指導を受ける中で、夏頃からは訓練日以外に自主練に消防署を訪れる毎日になっていました。

大会結果は、当日の強風にも泣かされ正直思うような成績とはならず、競技終了後、悔しさと緊張感から解放された安堵感、そして長い訓練をやり終えた達成感からみんな涙したことを忘れません。

この大会を終え、最初はどうなるか不安で一杯だった気持ちだが、貴重な経験を通じて今では女性団員みんなの大きな自信となり、そして深い絆へと結びついています。また、あらためて私たちの活動が家族や職場をはじめ、多くの消防関係者のみなさんや地域に支えられていることに気づきました。

この経験を踏まえ、今度はお返しする番だと思っています。以前よりもより積極的に、そして、女性ならではのやわらかくきめ細かな対応をめざし、子どもたちやお年寄りなど地域のみなさんに親しまれる活動を目指し、私たち自身も笑顔で楽しみながら、今後も女性団員として消防団活動を続けていきたいと考えています。



第20回全国女性消防操法大会

頑張れ!
少年消防
クラブ

いくさがわ

No.60 軍川少年消防クラブ（北海道）
南渡島消防事務組合
七飯消防出初式に参加

軍川少年消防クラブ 事務局 野田 俊朗

1月7日に開催された南渡島消防事務組合七飯消防出初式に、軍川少年消防クラブが初めて参加しました。当クラブは、少年少女期に防災に関することを学びながら、規律ある明るい少年の育成、また将来の地域防災リーダーの育成を目的として、平成24年4月に発足しました。

発足以来、規律訓練、防火教室、救急講習等の活動を行ってきましたが、出初式に参加することで、町民を初めとする各関係機関への初のお披露目となりました。

当日は、小雪の舞い散るマイナス6.8度という厳しい寒さの中にもかかわらず、リーダーを先頭に1年生から6年生のクラブ員が元気良く行進を行いました。指揮を

執ったリーダーの池田君は、号令の発声を自宅で何回も練習して当日に備えていた成果が見事に発揮され、来賓の皆さんからは、消防団員に勝るとも劣らない見事な行進であったとの評価をいただきました。

リーダー、旗手を務めたサブリーダーら6年生にとっては、今春小学校卒業と同時にクラブ員も卒業するため、最初で最後の出初式での行進になりましたが、とても良い思い出となったはずです。

クラブ員は決して多くはありませんが、今後も様々な活動を通して防災への意識を高め、その活動が町民の防災意識の裾野を広げる役割になることを願っています。





消防団120年特別企画 「大日本消防」表紙絵

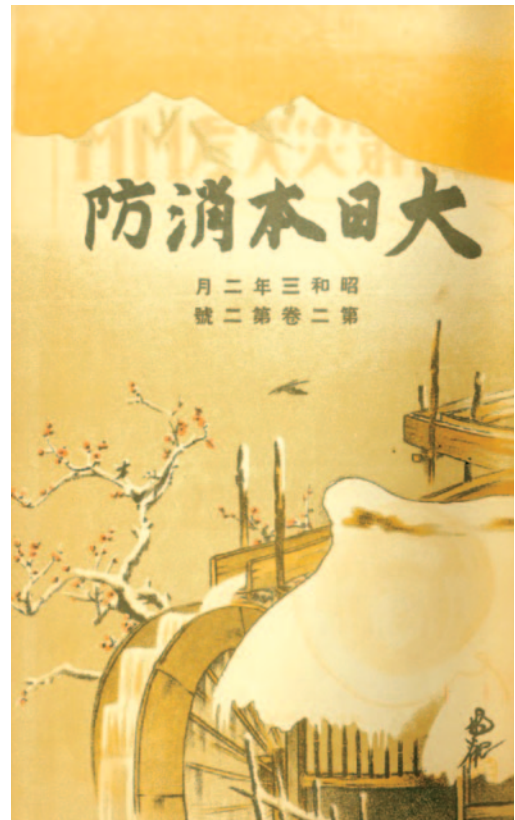
(財)日本消防協会

「日本消防」の前身である「大日本消防」の表紙絵を本号から1年間連載でご紹介いたします。どの表紙絵も有名画家の描き下ろしです。



発行：昭和3年1月
第2巻第1號
題名：「新 曉」
筆者：荒木十畝
(あらかじっぽ)

明治5年9月3日生まれ。
明治30年日本画会を創立。
代表作に「溪流」「黄昏」「寂光」など。



発行：昭和3年2月
第2巻第2号
題名：「水」
筆者：尾竹國観
(おだけこっかん)

明治13年4月21日生まれ。
尾竹越堂、尾竹竹坡の弟。
作品に「仮睡」「住吉」など。

うちの

名物団員



神奈川
県



茅ヶ崎市消防団 第13分団 副分団長

山本 隆史

「湘南のまち」で知られる茅ヶ崎市から、第13分団の山本隆史さんをご紹介します。

山本さんは、小学生の時から野球をしており、現在も少年野球のコーチとして活躍しております。日ごろから、人と人との係わり



写真（左）山本副分団長

りや地域や行政との連携をすごく大切にしております、消防活動にも活かされております。

今年は、操法大会にも指導者として出場し、持ち前の明るさと行動力により、団の絆を深めることができました。今後も地域の「安全・安心」の確保に向け活躍が期待されます。

熊本
県



菊池市消防団 第6分団

堤 直政

若手でありながら市の消防主任として活躍する堤さん。持ち前の明るさと負けん気の強さで、消防団幹部と共に団員を引っ張る若手のエースです。消防のみならず、職場のバレーボール部では昼の部も夜の部もエースとしてチームを牽引。消防でも職場でもチームワークを大切に、強い絆を

育む役割も担っています。

堤さんは昨年、2人目の子どもが生まれたばかりで、忙しい仕事の傍ら子育てにも積極的に参加する「イケメン」な「イクメン」でもあります。近々3人目も準備中とか。公私共にエンジン全開で頑張る堤さん。これからの目標は「消防団が地域防災の要となるような役割を、団長と共に確立していくこと」。その笑顔が、まちの未来の安全を明るく照らしているようです。





多度津町消防団 副団長

高島 悟

高島副団長は、昭和48年に入団し消防団歴40年の団員です。

平成21年4月1日に副団長を拝命し、現在59才です。

高島副団長は、消防団員として活動する一方、25才から空手を始め45才から多度津町立武道館で多度津町スポーツ少年団空手道支部の団員40名を指導し、国体に出場する選手を育て全国

で優秀な成績を取めました。

高島副団長は、長年勤めた会社を来年度に退職しますが、今後もスポーツ少年団活動と併せて消防団活動も、なお一層の活躍が期待されています。



多度津町消防団 副団長

渡邊 正則

渡邊副団長は、昭和47年に入団し消防団歴41年の団員です。

平成21年4月1日に副団長を拝命し、現在70才ですが元気溢れる団員で、消防団員として活動する一方、香川県立丸亀競技場で陸上競技の審判員をする傍ら、中讃ジュニアクラブ（小学4年生～6年生）75名の陸上競技指導を平成10年から始めて現在に至り、県内外の大会に出場する選手を育て、県内中学校の

陸上部外部コーチとしても活躍しています。

多度津町消防団においても、陸上競技で鍛えた体力・指導力で後進団員の指導にも全力で取り組むファイティング・スピリットのある団員です。



宮津市消防団 吉津分団第3部 団員

坂根 栄六

坂根栄六さんは宮津市消防団吉津分団第3部に所属しています。

吉津分団第3部は「やる時にはやる」をモットーに、メンバーが一人丸となって日頃から消防活動に励んでいます。昨年（2012年）は、宮津市消防操法大会の小型ポンプ操法の部で優勝し、吉津分団としては十数年ぶりに京都府大会に出場を果たしました。

愛する故郷を守るためにと、市議会議員の傍ら一消防団員・一地域住民として常に現場で消防防災活動に励んでおられる姿は、今後ますます期待するところです。



舞鶴市東大浦消防団 団員

手石方 健一（ていしかた けんいち）

南国の太陽をイメージさせる明るい笑顔と熱い志を持つ『永遠の少年』のような手石方団員を紹介します。

プロサッカー選手を目指しブラジル留学した経歴を持ち、引退後はもう一つの夢であった漁師となりました。

故郷を離れ夢を追いつける傍ら、子供たちにサッカーを教え、消防団員として地域の安心安全のため日々活躍しています。

消防団の広場

秋田県

「町を守る消防団本部」



羽後町消防団 本部
本部長

佐藤 良友



我が羽後町は、秋田県南部の農村地帯に位置する人口17,000人弱の町です。全国に誇れるものは数多くありますが、中でも毎年8月16日から3日間開催される国の重要無形民俗文化財であり、日本一の盆踊り「西馬音内盆踊り」は、開催期間中実に全国から15万人もの誘客があり大変有名です。そんな羽後町で活動している我が羽後町消防団ですが、現在は9分団制の定員513名、実団員451名で活動しております。私はその中でも秋田県内では唯一となる消防団本部分団に所属しております。

本部分団は、団長以下15名の人員構成で、いわば団長直属分団であり、私は分団長格であります本部長を拝命しております。分団員の職業としては原則自営業者としており、これは他の分団のように火災出場現場の出動範囲を地域として区切らず町内全域としていることから、できるだけどの時間帯の出動にも対応できる職業従事者をよしとしているためです。

本部の仕事は団長の指揮の下、火災現場での状況確認に始まり交通誘導・水利の確認・各分団への指示伝達・消防署との連携・被災者の状況確認・分団ポンプへの給油の手配・出動人員確認・自治体との連携や報告事項の

報告など実に多岐にわたり対応し、現場出場分団のスムーズな消火活動のための手助けをしております。年間の消防団行事では、出初式・消防訓練大会の準備運営や、各種訓練の準備などにも携わっています。

現在私は小売業を営みながら、入団以来34年以上にわたり消防団活動に従事しています。そのほかに、地域においてのコミュニティ事業・防犯・交通安全などのボランティアや商業者としての活性化事業など永年にわたって活動しておりますが、消防団における火災等災害時に緊急かつ困窮している人々を助けてあげられる、あるいは恐怖心から解放してあげられる、こんなに直接的に自分たちの住んでいる周りの人々に、そして自分の家族を守る意味においても消防団活動ほどやりがいのある最高の地域奉仕は無いと思っております。

今後も、自分たちの地域を守る消防団員として頑張りたいと思います。



平成25年度 全国統一防火標語

「消すまでは 心の警報 ONのまま」

5月の日本消防協会関係行事

5月9日(木)(午後)	福祉共済事業等運営委員会
5月10日(金)(午後)	監事監査(日本消防協会・全日本消防人共済会)
5月21日(火)(午後)	日本消防協会役員会議(正副会長会議)
5月22日(水)(午前)	日本消防協会役員会議(理事会、代議員会)
5月22日(水)(午後)	消防団員確保対策に関するシンポジウム

編集後記

本号から、「日本消防」の編集担当が、K.SさんからM.K(埼玉県の「のぼうの城」があった行田市より派遣)に変わりました。どうぞよろしくお願いいたします。

今年の11月25日(月)に東京ドームで、消防団120年・自治体消防65周年記念大会が開催されます。この記念大会を成功させるべく、消防団120年事務局を中心に日本消防協会全員が一丸となって準備を進めております。

また今年度は、この記念事業があることから、研修生も増員となりました。

私も含め研修生のほとんどが消防職員であり、今までの職場と違った日本消防協会の独特な環境の中であっても、それぞれの持てる力を発揮していく所存でございますのでよろしくお願いいたします。

これから「日本消防」を通じ、消防団に関する情報を中心として、消防に関する様々な情報をお届けしたいと考えております。掲載希望の出来事やニュース等がございましたらご連絡ください。(M・K)

お知らせ

当協会が今年3月に発行した「消防団120年史-日本消防の今日を築き、明日を拓くその歩み-」がこの度、“日本図書館協会選定図書”に選ばれました。

購読募集

購読を希望される方は、(財)日本消防協会へお問い合わせください。

※ 年間購読料(送料込) 2,388円

(問合せ先) 総務部企画担当 03-3503-1481

寄稿のお願い

皆さまの消防団活動への取り組み、ご意見などをもとに、より充実した有意義なものにしていきたいと考えておりますので、多数のご寄稿をお待ちしています。

Eメールでも受付しています。

soumu@nissho.or.jp

月刊「日本消防」第六十六巻第四号
平成二十五年四月五日印刷
平成二十五年四月十日発行

編集人 川手晃

発行所 財団法人日本消防協会

東京都港区虎ノ門二丁目一十九番

電話 〇三(3303)一四八二(代)

印刷所

東京都文京区湯島三丁目二十一番

日本印刷株式会社

電話(3833)六九七一(代)

生活協同組合 全日本消防人共済会

「火災共済金は1500倍補償」

B型火災共済

加入口数5口500円から25口2,500円まで
掛金25口2,500円で最高375万円の共済金

C型火災共済

加入口数最高200口20,000円まで
最高限度額掛金200口20,000円で最高3,000万の共済金
※共済への加入にあたり、組合員となっていたためのお出資金が別途必要となります。



共済金のお支払い対象 B型・C型共通

火災共済金：火災、落雷、爆破・破裂

風水雪害等共済金：風災、水災、雪災、車両飛び込み、航空機墜落

所在地 東京都港区虎ノ門2-9-16
日本消防会館6階

連絡先 TEL 03-3503-1439

FAX 03-3503-1480

E-Mail: kyousaikai@nissho.or.jp

URL: <http://www.nissho.or.jp>

消防個人年金

－ 将来の自分の為の積立年金制度です －

消防個人年金は、消防団員・消防職員の皆さまの老後の安定と福祉の向上を図るために、(財)日本消防協会が、第一生命保険株式会社と締結している拠出型企業年金です。



65歳まで積み立て可能な、公的年金の補完ができる制度です。

消防団の退団後・消防職の退職後も継続できます。

消防個人年金の説明に担当者がお伺いします。都道府県消防協会を通じてお申し込みください。

詳しくは、ホームページをご覧ください。